

平成28年度仙台市標準学力検査および仙台市生活・学習状況調査の 分析結果と指導改善の方策がまとまりました

今年4月に実施した「仙台市標準学力検査^{※1}」と「仙台市生活・学習状況調査^{※2}」の調査結果を6月に発表しましたが、このたび「仙台市確かな学力研修委員会^{※3}」による分析結果とそれを基にした指導改善の方策がまとまりましたので発表します。

今後はこれらをもとに、各学校において自校の学力や生活・学習状況を踏まえた課題の改善に向けた取り組みを行い、確かな学力の育成に役立てていきます。

1 仙台市標準学力検査分析結果と指導改善の方策

- (1) 分析結果から、仙台市の子どもの学力の傾向をまとめました（資料1）。
- (2) 目標値を特に上回った部分を成果、下回った部分を課題としてまとめました（資料2）。
- (3) 指導改善の方策について
目標値を下回った内容を中心に分析し、指導改善の方策をまとめました（資料3）。
- (4) 今後の取り組みについて
分析結果から明らかになった課題や指導改善の方策については、各学校に通知し、学校での授業改善等の取り組みに生かします。また、小学校4教科、中学校5教科において指導改善の方策を踏まえた公開授業を実施します。

2 仙台市生活・学習状況調査分析結果と指導改善の方策（資料4）

- (1) 分析結果について
 - ① 自分が世の中の役に立てるように、勉強を頑張っている児童生徒が増加しています。
 - ② いじめはどんな理由があっても、いけないことだと思っている児童生徒が増加しています。
 - ③ 携帯電話・スマートフォンの使い方について、家の人と約束したことを守っている児童生徒が増加しています。一方、LINEなどの通信アプリを1時間以上使用している児童生徒は、昨年度より増加しています。
 - ④ 震災後、児童生徒が地域に関わる機会が増え、進んであいさつする意識が高まっています。
- (2) 指導改善の方策について
課題のあった内容を中心に分析し、指導改善の方策をまとめました。
- (3) 今後の取り組みについて
分析結果から明らかになった課題や指導改善の方策については、各学校に通知し、学校での保護者等との連携した取り組みに生かします。また、教育委員会でも広報に努めるとともに、東北大学と共同でさらに分析を進めます。

* 詳細は別添の資料をご覧ください

※1 仙台市標準学力検査

児童生徒の学力の現状や課題を把握するため、小学校3年生以上を対象に、前学年で学習した内容（小学校3年生：国語、算数 小学校4年生～中学校1年生：国語、社会、算数・数学、理科 中学校2年生、3年生：国語、社会、数学、理科、英語）について、毎年4月に検査しています。

※2 仙台市生活・学習状況調査

児童生徒の生活習慣や学習状況を把握・分析するため、小学校2年生以上を対象に「学習意欲」や「道徳心・挑戦・夢」なども加えて、標準学力検査と同時に調査しています。

※3 仙台市確かな学力研修委員会

仙台市教育委員会が事務局となり、宮城教育大学と連携しながら、校長、教頭、教諭、指導主事を委員とし、仙台市標準学力検査及び仙台市生活・学習状況調査結果の分析および授業改善の方策の検討を行っています。

仙台市の子どもたちの学力の傾向

平成28年度仙台市標準学力検査結果の「観点別、内容別、問題別の平均正答率」と「目標値」との比較から見えてくる、仙台市の子どもたちの学力の傾向をまとめました。

小 学 校	国 語	○「話す・聞く能力」の中では、話の内容を聞き取る設問において高い傾向が見られた。 ▼出題の意図にそって考えを適切に表現することや指定された長さで書くことなど「条件に合わせて書く力」において課題が見られた。
	社 会	○資料を基に考察し、その内容を表現する「思考・判断」「表現」などの応用力が高かった。 ▼地図の見方や昔のくらしの様子における「知識・理解」,「関心・意欲・態度」に課題が見られた。
	算 数	○概ね基本的な四則計算の技能が定着している状況が見られた。 ▼問題の意味を理解し、求め方や答えを式や言葉で説明する応用力における「表現」に課題が見られた。
	理 科	○各領域の内容にかかわる基礎的な「自然事象についての知識・理解」で高い傾向が見られた。 ▼既習事項や得た知識を活用して現象を説明するなどの「表現」に課題が見られた。
中 学 校	国 語	○「話す・聞く能力」,「読む能力」, 応用力における「思考・判断」,「表現」がいずれの学年においても高い傾向が見られた。 ▼文章と図表を関連付けながら読む力に課題が見られた。
	社 会	○資料を基に考察し、その内容を表現する「思考・判断」「表現」などの応用力が高かった。 ▼地形図, 雨温図等の読み取りなどについて, 課題が見られた。
	数 学	○一次方程式や平面図形, 空間図形にかかわる「数量や図形などについての知識・理解」, 応用力における「思考・判断」が身に付いている状況が見られた。 ▼分子が1次式である分数の加法における「技能」や, 事象の起こりやすさ(確率)を説明する応用力における「表現」に課題が見られた。
	理 科	○生物と環境や水溶液の性質, 電気の利用などについて答える「思考・判断」の力が見られた。 ▼実験結果をグラフにかくことや重力の大きさを矢印で表現することなどの「観察・実験の技能」に課題が見られた。
	英 語	○場面に応じて英作文する「外国語表現の能力」や, さまざまな英文や長文を読み取る「外国語理解の能力」が高かった。 ○リスニングでは, 英文の聞き取り, 要点を理解することができた。 ▼単語を正しく書くことや, 場面に応じた英作文を書くことに課題が見られた。

平成28年度仙台市標準学力検査分析結果（成果と課題）

分析の結果、目標値を特に上回った部分を成果、下回った部分を課題としてまとめました。
（詳細は資料3を参照）

学年	教科	成果	課題	指導改善の方策（概要）
小学校3年	国語	① 話の内容を聞き取ること。	❶ 与えられた情報を読み取り、順序よく説明すること。	➡ 分かりやすく説明するために、話のまとめりごとに話すことや、順序を表す言葉を使って工夫して伝えさせる指導を行う。
		② 漢字を読み書きすること。	❷ 経験や想像したことの中から書くことを決め、作文すること。	➡ 経験したことなどをノートにメモ書きさせ、伝えたい事柄を選ばせるなどの書く活動を意図的継続的に行う。
	算数	① 時刻と時間について理解すること。	❶ 直方体の特徴から辺の数を理解すること。	➡ 多様な箱の形を観察させ、辺、面の数を調べさせたり、箱の形を分解させたり、作らせたりする指導を行う。
		② 繰り上がりの約束を理解して計算すること。	❷ 塔の高さを工夫して求める場面で、考え方や図を理解し、乗法九九を用いた式で表すこと。	➡ 図の提示により場面をきちんと読み取らせ、問題で示された考え方を図と順序よく対応させながら式に表していく指導を行う。
小学校4年	国語	① 話し合いの内容を聞き取ること。	❶ 文の構成（主語と述語）について理解すること。	➡ 物語文や説明文を読み取らせる中で主語と述語にあたる言葉を確認させる指導を行う。
		② 漢字を読むこと。	❷ 2段落構成で文章を書くこと。	➡ 書く順序や段落に気を付けて書かせることや、条件に合わせ、事柄を整理して書く力を育成する指導を行う。
	社会	① 地図を読み取り、土地利用の様子と交通の様子を結び付けて考え、表現すること。	❶ 地域に様々な販売に関する仕事があることを理解すること。	➡ 調査結果を発表させたり、表にまとめさせたりするなど、多様な表現活動に取り組みさせる。
			❷ 農家の仕事について、働く人の仕事の進め方を理解すること。	➡ 「農事ごよみ」を活用して、農作業の進め方や仕事の内容を体験と結び付けさせながら理解させる指導を行う。
	算数	① 九九や二桁の繰り上がりの計算を行うこと。	❶ 三位数×一位数の計算の仕方を説明すること。	➡ ペア学習やグループ活動の中でホワイトボード等を活用し、互いに計算の仕方を説明させ、多様な考えに触れさせる指導を行う。
		② 円や球、三角形の性質を理解して計算や作図をすること。	❷ 問題に対して、計算結果を根拠にして理由を説明すること。	
理科	① ホウセンカの育ち方を理解すること。	❶ 虫めがねを正しく使うこと。	➡ 虫めがねを使用した観察を十分に経験させ、手に持てる物を観察する場合と持てない物を観察する場合の使い方の違いを身に付けさせる指導を行う。	
	② 風やゴムのはたらきを車が走った距離との関係から理解すること。	❷ 日なたの水たまりの氷がとけた理由を、日光とのかかわりから説明すること。	➡ 知識を身に付けさせるだけではなく、それらを活用して自然現象を説明する力を育成する指導を行う。	

学年	教科	成果	課題	指導改善の方策（概要）
小学校5年	国語	① 漢字を読むこと。	① 説明文において、段落の役割を理解して文章の内容を的確に読み取ること。	⇒ 段落の内容を要約させ、それをもとに段落の構成図を書かせ、内容と構成をとらえさせる指導を行う。
		② 話し合いをもとにポスターを作ること。	② 目的や必要に応じて、書くこととする内容を区別して作文すること。	⇒ 目的や必要に応じてメモを活用する場面を設け、書き直した文章の表現や書いた内容を振り返る活動を行う。
	社会	① 火災への備えや発生した時の消防署の役割を理解すること。	① 飲料水の水源を確保・維持するために、森林が保全されていることを理解すること。	⇒ 水の循環や森林などの働きについて、資料を活用しながら調べさせ、まとめる活動や説明する活動を取り入れた指導を行う。
		② 警察署の役割、法やきまりを理解すること。	② 地図上における方位と地図記号を関連付けて考えること。	⇒ 年間指導計画に地図を活用する学習活動を明確に位置付け、継続的に指導を行う。
	算数	① 折れ線グラフを正しく読み取ること。	① 分度器を用いて角の大きさを測ること。	⇒ 基準となる0°がどこになるか考えさせ、測定する前におよその角度を予想させるようにする。
		② 伴って変わる2つの数量の関係(比例)を式に表すこと。	② 切り上げて見積もることの意味を理解して、概数を用いて判断し、説明すること。	⇒ どのような場面で、何のために概数を用いるのか考えさせ、概数で見積もりをする方法を理解させる指導を行う。
	理科	① 気温の測定方法や気温の変化と天気の間係を理解すること。	① 光電池の適切な設置の仕方について説明すること。	⇒ 光電池を用いて、当てる光の強さと流れる電流の強さの間係を捉えさせる指導を行う。
		② 月の満ち欠けや動き、星の明るさや動きを理解すること。	② 水を熱するとき沸騰石を入れる理由について理解すること。	⇒ 突沸が起こる理由を理解させ、沸騰石を入れる必要性を捉えさせて安全に実験を行えるように指導を行う。
小学校6年	国語	① 物語の内容を読み取ること。	① 漢字の成り立ちについて理解すること。	⇒ 漢字の部首には意味があることを理解させ、会意文字と形成文字をきちんと区別させる指導を行う。
		② 資料をもとに意見文を書くこと。	② 与えられた情報を読み取り、適切な内容を補って文章を書くこと。	⇒ 資料から必要な情報を読み取り、どの部分を活用すべきか判断し、適切な語句を補いながら文章を書かせる指導を行う。
	社会	① 食料の輸入や自給率について資料をもとに説明すること。	① 日本の位置と領土について理解すること。	⇒ 地図帳や地球儀を活用し、日本の位置や領土、日本の周りの国々について調べ、白地図やノートに表現させて知識の定着を図る指導を行う。
		② 農業や水産業について資料をもとに説明すること。	② 日本の工業が原材料を多く輸入していることを資料から読み取ること。	⇒ 資源に乏しい日本の特徴から輸入品目を理解させ、重要語句を踏まえながら輸入の特色を説明させ、知識を活用する力を育成する指導を行う。
	算数	① 値に0があり、答えが小数になる分離量の平均を求めること。	① 割合について理解し、基準量を求める式を選ぶこと。	⇒ 絵や図、数直線や線分図などを活用し、数量の間係を視覚的に捉えさせ、割合を明確にして求めさせる指導を行う。
			② 情報を読み取って面積をもとに計算したり、説明したりすること。	⇒ 情報を整理して問題を解かせる指導や、自分の考えを説明したりまとめたりのような言語活動の充実を図る。
	理科	① 魚と人の誕生について理解すること。	① ミウバンをとかす前後で全体の重さは変わらないことを理解すること。	⇒ 課題意識を持って実験に取り組みせ、物を水にとかしても重さは変わらないことを実感させる指導を行う。
		② 植物と花のつくりや実のでき方について理解すること。	② 電磁石の性質について理解すること。	⇒ 検流計を活用し、方位磁針の向きから電磁石の極を予想させながら、実際に確かめるようにする。

学年	教科	成果	課題	指導改善の方策（概要）
中学校1年	国語	① 文学作品の内容を読み取ること。	① 慣用句の意味や使い方を理解すること。	⇒ 様々な文例から語句の意味や使われ方を理解させ、言葉のつながりを意識した文づくりをさせる指導を行う。
		② 話し合いと資料の内容を読み比べること。	② 文章の展開に即して内容をとらえること。	⇒ 文章全体の構成や展開を押さえながら話の核となる部分を読み取らせ、要旨を的確にとらえさせる指導を行う。
	社会	① 縄文時代から平安時代の様子を理解すること。	① 貴族が生活していた住宅様式である寝殿造について理解すること。	⇒ 時代背景を踏まえながら、特徴がよく分かる具体的な資料を活用し、整理させる指導を行う。
		② 安土桃山時代、江戸時代の社会の様子を理解すること。	② 政治の方針を実現するための予算について理解すること。	⇒ チャート等を用いて、どのような過程を経て政治の方針が実現するのか順序立てて丁寧な指導を行う。
	数学	① 線対称な図形を選ぶこと。	① 百分率について理解し、比較量を求める式を選ぶこと。	⇒ 数量関係を数直線図に表すことで基準量と比較量、割合の関係を確実に捉えさせる指導を行う。
		② 2つの柱状グラフを比較して、必要な情報を読み取ること。	② 割合が一定のときに、基準量の変化から比較量の大小を判断し説明すること。	⇒ 割合が等しいときは、基準量が多いほど比較量が大きくなることを、数直線図で書かせたり、表した図を解釈させたりする指導を行う。
	理科	① 水溶液の性質を理解し、区別すること。	① 植物の体内の水の通り道を理解すること。	⇒ 植物の体内の水の通り道を染色により可視化し、実際に切りながら観察することで、根・茎・葉の連続性に気付かせる指導を行う。
		② 生物と環境のかかわりについて理解すること。	② 粒の様子から、粒を採取した地層を推測すること。	⇒ だろ、砂、火山灰などの様子を観察させ、その特徴を流れる水の働きや火山の噴火との関連から捉えさせる指導を行う。
中学校2年	国語	① 説明文の内容を読み取ること。	① 登場人物の心情や行動、情景描写に注意して読み取ること。	⇒ 登場人物の言葉や行動を表す描写、情景描写に着目し、心情や人物像をとらえさせる指導を行う。
		② 条件に合わせて作文すること。	② 新聞記事の内容から図表や写真の役割をとらえて理由をまとめること。	⇒ 図表や写真が説明する上で、どのような役割を果たしているのか考えさせる学習活動を取り入れるようにする。
	社会	① 世界地図や地球儀の特色から、地球の姿をとらえること。	① 世界各地の気候について、雨温図から判断すること。	⇒ 世界各地の気候の特色について、地図と雨温図を関連付けながら捉えさせる指導を行う。
		② 資料をもとに、古墳時代の様子を判断すること。	② 大化の改新の政治について、その特色を理解すること。	⇒ 個々の歴史的事象について、マッピング等により構造化や関連付けを図るようにする。
	数学	① 平面図形を作図すること。	① 同類項をまとめること。	⇒ 複数の1次式を面積図で比較させたり、式の表す意味を読み取らせたりしながら、正しい理解を促す指導を行う。
		② 度数分布表やヒストグラムを読み取ること。	② 反比例の関係で、比例定数と x, y の値の変化の関係を理解すること。	⇒ 負の数でも反比例の性質が成り立つことをつかませる指導を行う。
	理科	① 植物のからだのつくりとはたらきを理解し、分類すること。	① 物質が水に溶ける量と結晶として出てくる量の関係を、グラフから読み取ること。	⇒ 実験結果を振り返らせながら溶解度曲線の見方を理解させ、溶けている溶質の量や析出する結晶の量を説明させる指導を行う。
		② 気体の性質や区別する方法を説明すること。	② 質量が同じで密度が違う物質は、体積が違うということを説明できること。	⇒ 同体積の2種類の溶液に固体の物質を入れたときの、浮き沈みの現象を見せることで、液体の密度の違いを見いださせる指導を行う。
英語	① 自分のことについて、まとまった内容の英文で説明すること。	① 対話の流れに合った英文を書くこと。	⇒ 場面設定に合った適切な表現を使って情報交換できる能力を養うとともに、話した内容を英文で書かせる指導を行う。	
	② 様々な英文を読み取ること。	② 英文を正しい語順で書くこと。	⇒ コミュニケーションの中で文法を身に付けるよう、既習の表現を継続的に使用する機会を意識的に設けて三人称や疑問文等の働きを体験的に理解させる指導を行う。	

学年	教科	成果	課題	指導改善の方策（概要）
中学校3年	国語	① 漢字を書くこと。	① 説明文の展開をとらえて内容を整理しまとめること。	⇒ 文章の展開について、段落の役割や段落ごとの関連に着目してとらえさせる指導を行う。
		② 複数の広告を読み比べること。	② 自分のとった立場の理由を明確にして作文を書くこと。	⇒ 作文の課題設定に当たり、立場を明確にすることやその理由を具体的な体験と結び付けて書くことを条件として指導を行う。
	社会	① 世界と比べた日本の地域的特色について、資料から読み取ること。	① 方位や地図記号、等高線などの理解をもとに、地形図を読み取ること。	⇒ 方位や地図記号、等高線の読み取り方などを地形図の活用により継続的に指導して定着を図るようにする。
		② 日本の諸地域の特徴を理解すること。	② 安土桃山文化の特色について、要点を整理して理解すること。 ③ 江戸時代に諸藩が行った改革の目的について、資料をもとに押さえること。	⇒ 時代背景や各時代の特色と文化を関連付けて、なぜその時代にその文化が生まれたのか考察させる指導を行う。 ⇒ 江戸時代の諸藩の改革内容を整理させ、幕府の改革内容と比較させることを通して考えを深めさせる指導を行う。
	数学	① 文字式の意味を理解し、計算すること。	① 根拠となることからを正しく書き、三角形の合同を証明すること。	⇒ 推論の過程を言葉で伝え合う場や証明の手順を確認する場を設定して、数学的に表現する力を育成する指導を行う。
		② 1次関数の意味を理解し、グラフを読み取ること。	② 不確定な事象の起こりやすさの傾向をとらえ、判断の理由を説明すること。	⇒ 樹形図や二次元の表などを利用して、確率を根拠として説明させる場面を大切に指導を行う。
	理科	① 細胞のつくりと役割について理解すること。	① 表をもとに加熱前の銅の質量と加熱後の物質の質量の関係のグラフをかくこと。	⇒ 実験データをグラフ化する正しい手順を示すとともに、原点(0,0)がデータとして重要であることや、誤差を踏まえて線をかくことを理解させる指導を行う。
		② 動物のからだのつくりと働きや動物の分類・生物の変遷と進化について理解し、説明すること。	② 電流の向きと磁界の向き、電流が流れている導線が受ける力の向きを指摘すること。	⇒ 観察・実験により、現象から電流や磁界、力の向きを立体的に捉えさせた上で、写真や図、映像資料などを利用して生徒の理解を深めさせる指導を行う。
	英語	① 語形・語法を理解すること。	① 対話の内容を聞き取り、資料をもとに英語で答えること。	⇒ 表やグラフなどを用いた言語活動の中で、様々な語やその派生語を習得させることや、疑問詞を用いた質問に瞬時に答える練習を継続的に行う。
		② 絵を適切に表している英文を聞き取ること。	② 対話文の内容を読み取り、内容に合った単語を正しく書くこと。	⇒ 副詞や形容詞を正しく使えるようにするために、単文だけではなく、論理性のある文章を用いた発展的な言語活動を行う。

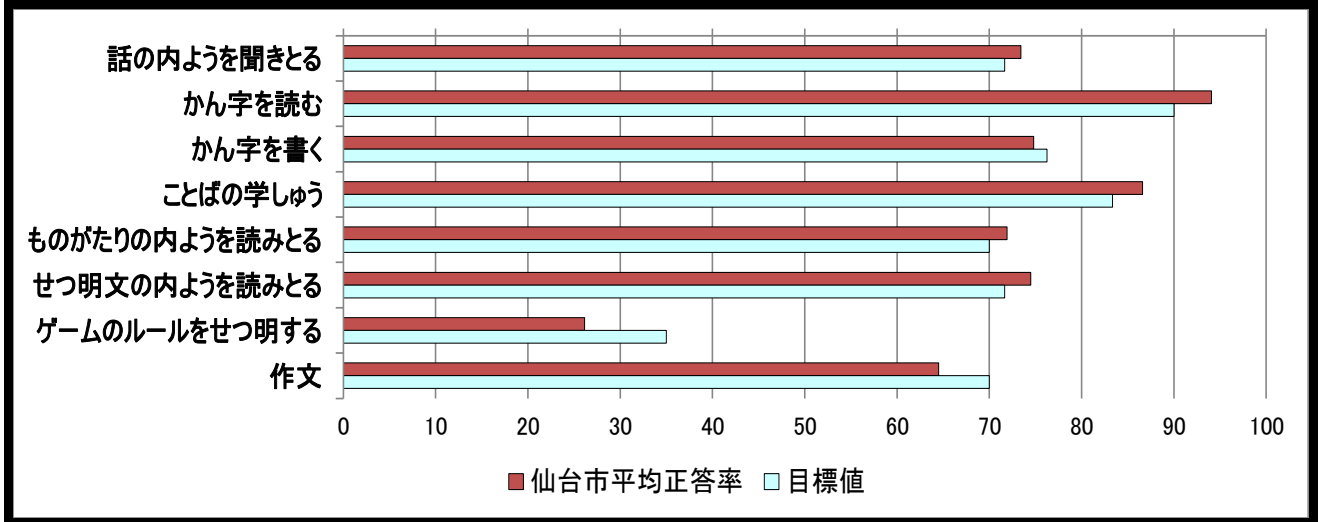
平成28年度仙台市標準学力検査分析結果と指導改善の方策【学年・教科】

※ 以下、各学年のグラフは、内容別正答率を表したもの

【小学校3年生 国語】

分析結果

目標値 73.4% 市平均正答率 73.6% <2年生内容別正答率のグラフ(%)>



※目標値-5ポイント ≤ 目標値と同等 < 目標値+5ポイント

市平均正答率は目標値と同等である。(○:成果 ●:課題)

- ①「かん字を読む」では目標値を4.1ポイント上回っている。
- ②「ことばの学しゅう」では目標値を3.3ポイント上回っている。
- ①「ゲームのルールをせつ明する」では目標値を8.9ポイント下回った。説明するためのメモを基に、どのような順序で話せばよいかを理解することに課題があると考えられる。
- ②「作文」では目標値を5.5ポイント下回っている。無解答率が23.8%と高いことから、経験したことをどのように文章に書けばよいか迷ったものと考えられる。

指導改善の方策

① メモを基に順序よく説明するために

「ゲームのルールをせつ明する」設問では、提示されたメモを基に順序よく遊び方を説明することが求められている。解答を選択する設問であるが、誤答を選択した児童が多く見られた。メモの「進め方」の内容を、読み手に分かりやすく伝えるために、「まず」「そうしたら」などの順序を表す言葉を使っていることに対する理解が不十分であると思われる。

指導に当たっては、聞き手を意識して、分かりやすく説明するために、話のまとまりごとに話すことや「まず」「次に」などの順序を表す言葉を使って、工夫して伝える必要があることを指導していくことが重要である。

② 経験・想像したことの中から書くことを決め、文章を書くことができるようにするために

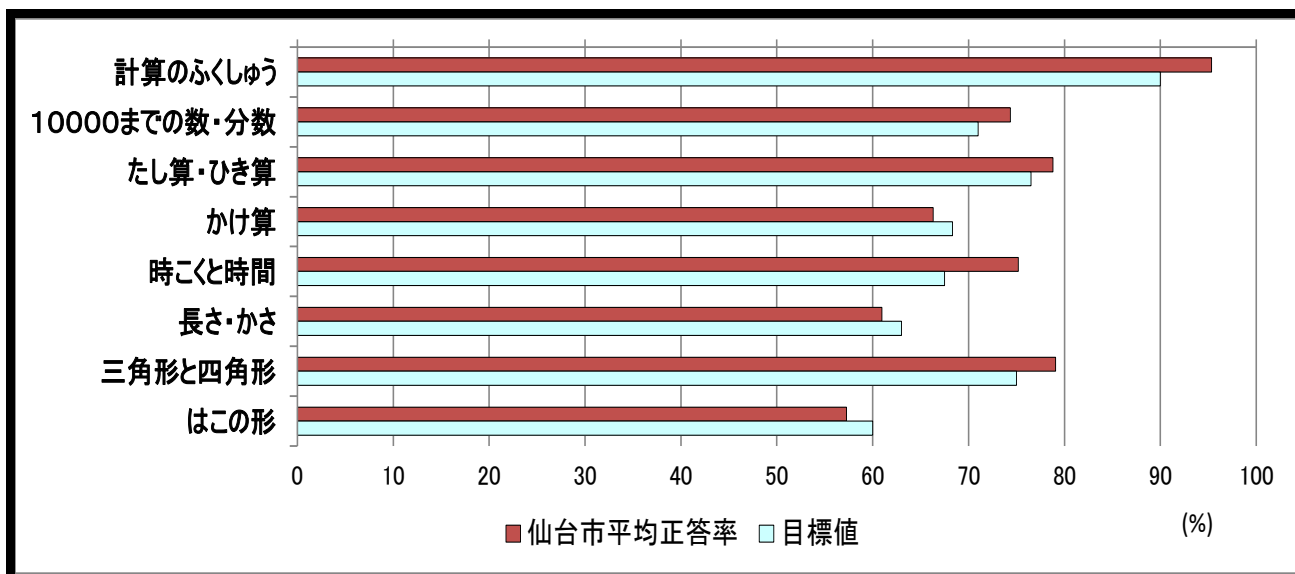
行ったことのあるところで、「また行ってみたい」と思うところを作文する設問では、経験・想像したことの中から書くことを決め、文章に書くことをねらいとしている。「指定された長さで文章を書くこと」ができた児童は66.4%、「経験・想像したことの中から書くことを決め、自分の考えを明確に書くこと」ができた児童は65.0%であった(準正答を含)。無解答率は、23.8%と高く、経験したことをどのように文章に書けばよいか迷ったものと考えられる。

指導に当たっては、経験したことや考えたことが読み手に伝わるように、意図的、継続的に書く活動を取り上げ、指導していく必要があると思われる。

【小学校3年生 算数】

分析結果

目標値 71.3% 市平均正答率 72.5% <2年生内容別正答率のグラフ(%)>



※目標値-5ポイント ≦ 目標値と同等 < 目標値+5ポイント

市平均正答率は目標値と同等である。(○:成果 ●:課題)

- ①「計算のふくしゅう」では、目標値を5.3ポイント上回っている。
- ②「時ごとと時間」では、目標値を7.7ポイント上回っている。
- ①「かけ算」では、考え方や図を理解し、乗法九九を用いた式で表す設問において目標値を11.3ポイント下回っている。無解答率は31.0%であった。考え方を図と対応させながら読み取り、式に表すことに課題が見られる。
- ②「はこの形」では、直方体の辺の数を問う設問において目標値を11.2ポイント下回っている。直方体の辺の数の理解に課題が見られる。

指導改善の方策

① 考え方を図などと関連付けて読み取り、式に表すことができるようにするために

塔の高さを工夫して求める場面において、考え方や図を理解し、乗法九九を用いた式で表すことができることをねらいとした設問では、誤答に「数値は入れられるが、式が書けていない」というものがあった。考え方は捉えているが、式に表すことにつまずきがあると考えられる。

指導に当たっては、問題にある考え方を図と順序よく対応させながら式に表していくことが大切である。そのためには、簡単な絵や図を提示して考えさせたり、自分なりの図を描かせて考えさせたりするなど、場面を読み取らせる必要がある。

② 図形の特徴を実感的に理解できるようにするために

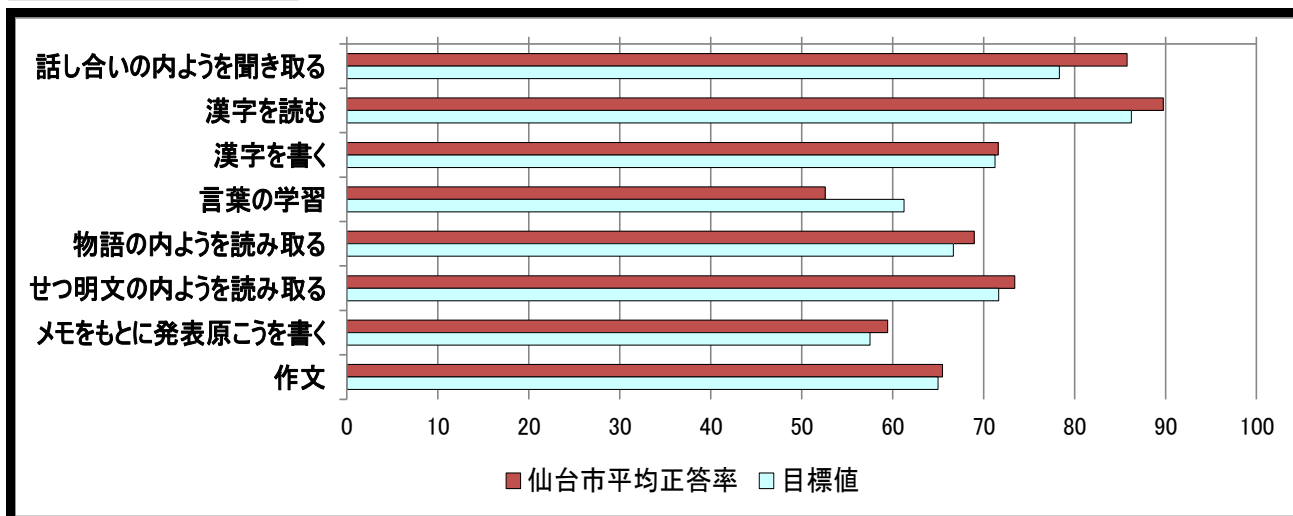
直方体の中で、同じ長さの辺の数を問う設問では、目標値が70.0%に対し、市平均正答率が58.8%であった。2年生では、身の回りにある箱の形をしたものについて指導する。その際、4年生で指導する直方体や立方体などの立体図形について理解する上で基盤となる素地的な学習活動を充実させることが大切である。

指導に当たっては、実際に身の回りにある多様な箱の形を観察させ、辺、面の数を調べさせたり、面の形に着目させたりする活動を取り入れる。その際、辺と面の数に着目させるために、実際に箱を作るなどの活動を行うことが考えられる。

【小学校4年生 国語】

分析結果

目標値 70.4% 市平均正答率 71.2% <3年生内容別正答率のグラフ(%)>



※目標値-5ポイント ≤ 目標値と同等 < 目標値+5ポイント

市平均正答率は目標値と同等である。(○:成果 ●:課題)

- ①「話し合いの内よを聞き取る」では目標値を7.5ポイント上回っている。
- ②「漢字を読む」では目標値を3.4ポイント上回っている。
- ①「言葉の学習」では目標値を8.7ポイント下回った。文の構成(主語と述語)についての理解やローマ字の理解が不十分である。
- ②「作文」では目標値を上回っているが、「指定された長さで文章を書く」設問では2.5ポイント、「2段落構成で文章を書く」設問では3.9ポイントそれぞれ下回った。条件に合わせて書く力に課題が見られる。また、無解答率が15.0%と高いことから、内容の読み取りに時間がかかり、設問までに至らなかった可能性が考えられる。

指導改善の方策

① 文の構成(主語と述語)について正確に理解させるために

文の構成(主語および述語)について問う設問では、主語を誤答したもの、述語を誤答したもののどちらも20%を上回っており、全体として主語と述語どちらの理解も不十分な傾向が見られた。

指導に当たっては、主語は「～は(が)」, 述語は「どうする(どんなだ)」にあたる言葉であることをおさえ、主語と述語の見つけ方を理解させる必要がある。また、主語と述語については2年生での学習内容であるが、学習の定着のため、文の構成についての学習(言葉の学習)の度に振り返ったり、物語文や説明文を読み取る授業の中で確認させながら読み取らせたりすることが必要である。その際、主語・述語という学習用語を確実に使っていくことも大切である。

② 考えと理由を段落に分けて書かせるために

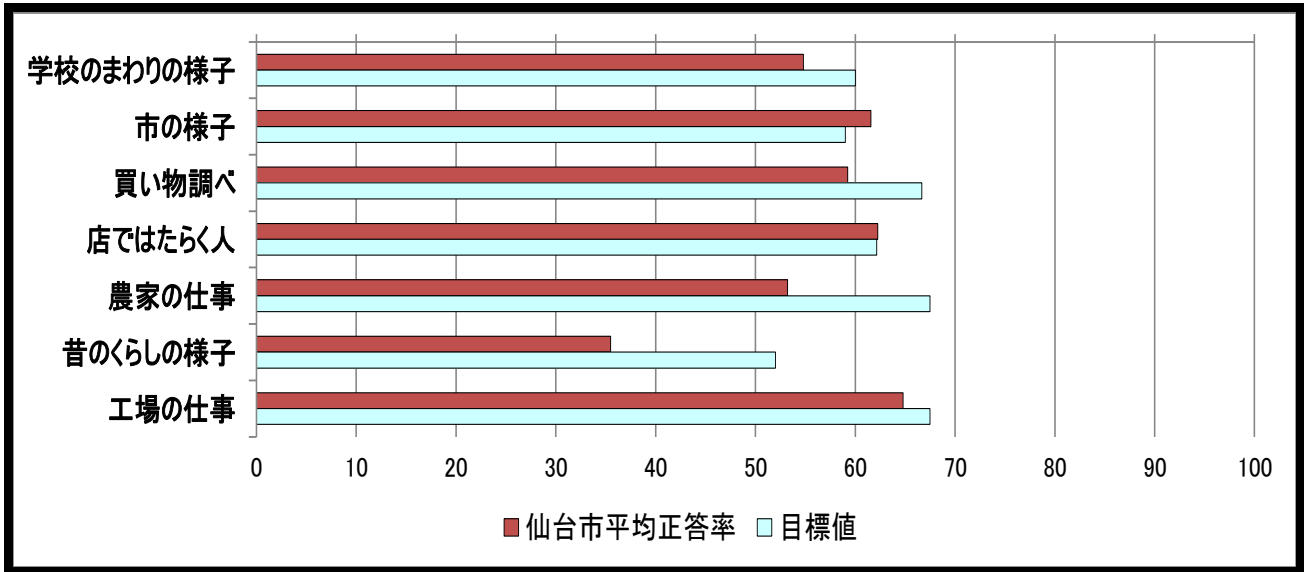
「四年生の間にやってみたいことや、ちょうせんしてみたいこと」を作文する設問では、書こうとするこの中心を明確にし、自分の考えと理由について段落を分けて書く力が求められる。自分の考えを書くことができた児童は80%, 理由を挙げて書くことができた児童は73.3%である一方、指定された長さで文章を書くことができた児童は57.5%, 2段落構成で書くことができた児童は51.1%であった。書こうとするこの中心を明確にし、理由とともに書くことはできるが、条件に合わせて書く力に課題が見られると考えられる。

指導に当たっては、条件に合わせ、事柄を整理して書く力を育成していく必要がある。また、考えと理由について、書く順序や段落に気を付けて書かせる工夫が重要である。

【小学校4年生 社会】

分析結果

目標値 60.2% 市平均正答率 55.6% <3年生内容別正答率のグラフ(%)>



※目標値-5ポイント ≤ 目標値と同等 < 目標値+5ポイント

市平均正答率は目標値と同等である。(○:成果 ●:課題)

- ①「市の様子」では目標値を2.6ポイント上回っている。
- ①「買い物調べ」では目標値を7.5ポイント下回っている。特に、販売店の特色に関する知識を問う設問において、目標値を13.9ポイント下回る結果となっており、知識の定着に課題が見られる。
- ②「農家の仕事」では目標値を14.3ポイント下回っている。特に、働く人の仕事の進め方についての知識を問う設問において、目標値を26.8ポイント下回る結果となっており、知識の定着に課題が見られる。

指導改善の方策

① 様々な販売に関する仕事の特徴について理解させるために

地域の様々な販売に関する仕事の特徴について問う設問では、正答以外の3つの解答を選択した児童がほぼ同数見られた。そのため、各店の特色について児童の知識が正しく整理されていないことが考えられる。また、選択肢が表になっており、特色を表すポイントが読み取れなかったこともうかがえる。

指導に当たっては、児童に調べた結果をペアやグループで発表させたり、クラス全員の調べた結果を分かりやすく表にまとめさせたりすることで知識の定着へとつなげていきたい。また、表にまとめる際やノート指導を行う際には各販売店の特色をキーワードで表したり、下線を引かせたりすることにより、より児童に印象付けることができるものとする。

② 農家の仕事の進め方について理解させるために

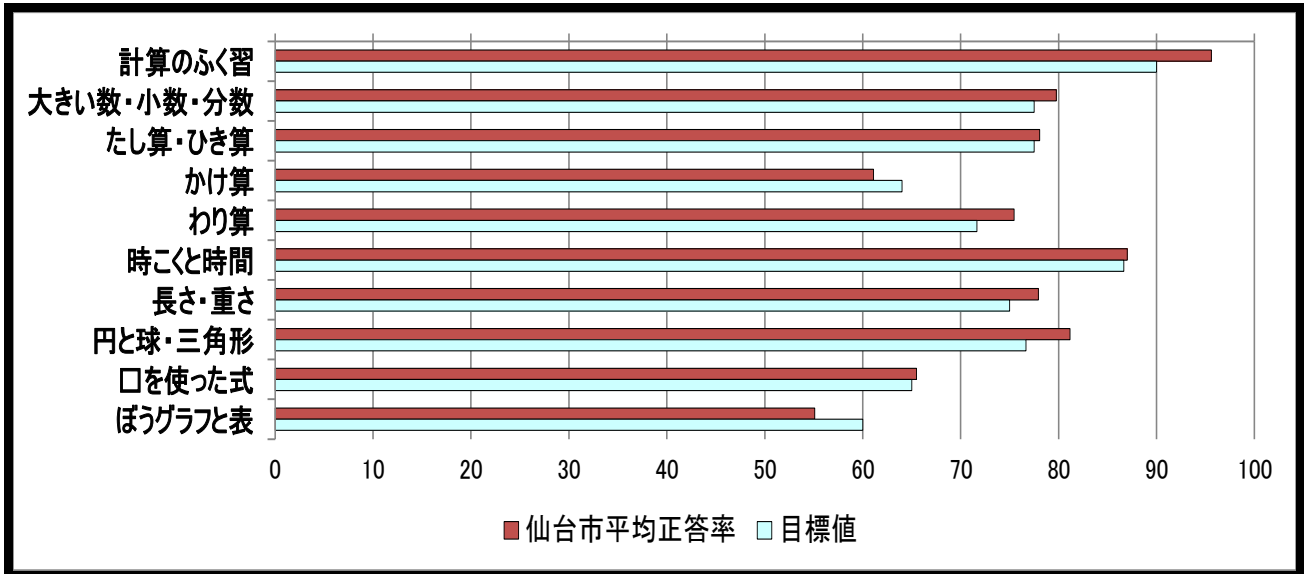
農家の仕事の進め方について、肥料と土を混ぜる作業の時期を解答する設問では、正答の「たねをまく前」ではなく、「水やりとシートをかける作業の間」を選択する児童が多く見られた。このことから、種をまく前の土作りと追肥の違いが理解できていないことが考えられる。

指導に当たっては、「農事ごよみ」を活用するなどして、種をまいた後の作業だけでなく、作物を育てるために、一年をとおして仕事に取り組んでいることを押さえさせるようにする。その際、これまでに子どもたちが植物や作物を育てた経験を想起させながら、具体的なイメージを持たせながら理解を図るようにする。

【小学校4年生 算数】

分析結果

目標値 73.9% 市平均正答率 75.4% < 3年生内容別正答率のグラフ(%)>



※目標値-5ポイント ≤ 目標値と同等 < 目標値+5ポイント

市平均正答率は目標値と同等である。(○：成果 ●：課題)

- ① 「計算のふく習」では、目標値を 5.6 ポイント、「円と球・三角形」では、目標値を 4.5 ポイント上回っており、ほとんどの項目で目標値を上回っている。
- ② 「かけ算」の 400×9 の計算を説明する問題では、目標値を 11.0 ポイント下回っている。
- ③ 「かけ算」において、乗法を用いて図鑑全巻の幅を求め、棚に入らない理由を説明する問題では、無解答率が 33.2% と高い。
- ④ 「□を使った式」の□を使った乗法の式に合った文章問題を選ぶ問題では、目標値を 11.6 ポイント下回っている。 ※平成 27 年度 仙台市学力向上に関する調査・実践報告書に改善事例掲載

指導改善の方策

① 何百×1位数の計算の仕方を説明することができるようにするために

この設問は、目標値 55.0% に対し、市平均正答率は 44.0% と低く、示された計算式を説明するという問題形式に児童が慣れていなかったことが考えられる。

指導に当たっては、計算の仕方を説明する力を身に付けるために、普段の授業から、題意をつかむことや確かめることを重視し、多様な考え方に触れ、数感覚を磨くことが重要である。また、授業の中で児童自身が説明する場面を設定することや思考力や表現力が求められる活用する問題に挑戦させることも大切である。

② 乗法を用いて答えを求め、理由を説明することができるようにするために

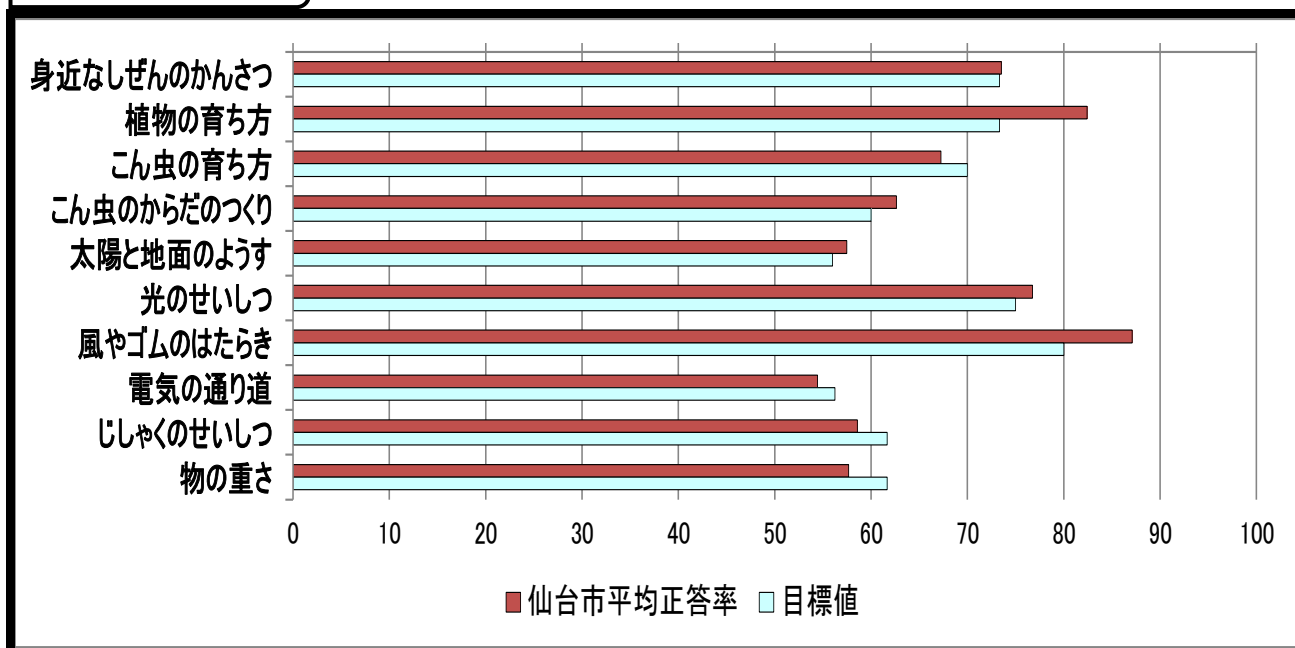
この設問は、目標値 30.0% に対し、市平均正答率は 25.4% と低く、誤った解答を記述した児童が 35.3% と多く、また、無解答率が高いことから、思考力や説明する表現力が十分身に付いていないことが考えられる。

指導に当たっては、普段の授業の中で、児童自身が説明する場面を設けることや思考力・表現力が求められる活用する問題に取り組ませることが大切である。また、日常生活の中で、算数を活用するよさに気付かせ、活用することへの関心・意欲を高めることが考えられる。

【小学校4年生 理科】

分析結果

目標値 65.5% 市平均正答率 66.2% <3年生内容別正答率のグラフ(%)>



※目標値-5ポイント ≤ 目標値と同等 < 目標値+5ポイント

市平均正答率は目標値と同等である。(○:成果 ●:課題)

- ①「植物の育ち方」では、目標値を9.1ポイント上回っている。
- ②「風やゴムのはたらき」では、目標値を7.1ポイント上回っている。
- ①「身近なしぜんのかんさつ」では、虫めがねの正しい使い方を問う設問において、目標値を6.6ポイント下回っている。観察の技能に課題がある。
- ②「太陽と地面のようす」では、日なたの水たまりの氷が溶けた理由を問う設問において、目標値を10.0ポイント下回っている。日光が当たることと地面があたたまることを関連付けて考えることに課題がある。

指導改善の方策

① 虫めがねの使い方をしっかりと身に付けさせるために

虫めがねの正しい使い方についての設問では、誤答として「虫めがねを目から離して使用する」と解答した児童が44.6%と多く見られた。手に持てる物を観察する場合と、手に持てない物を観察する場合の虫めがねの使い方の違いが身に付いていないことが考えられる。

指導に当たっては、場面を指定して虫めがねを使用する機会を十分に設定して経験させることが必要であり、屋外で使用する前に、「使い方」をめあてとした学習を設定することが重要である。

② 現象について理由を付けて説明することができるようにするために

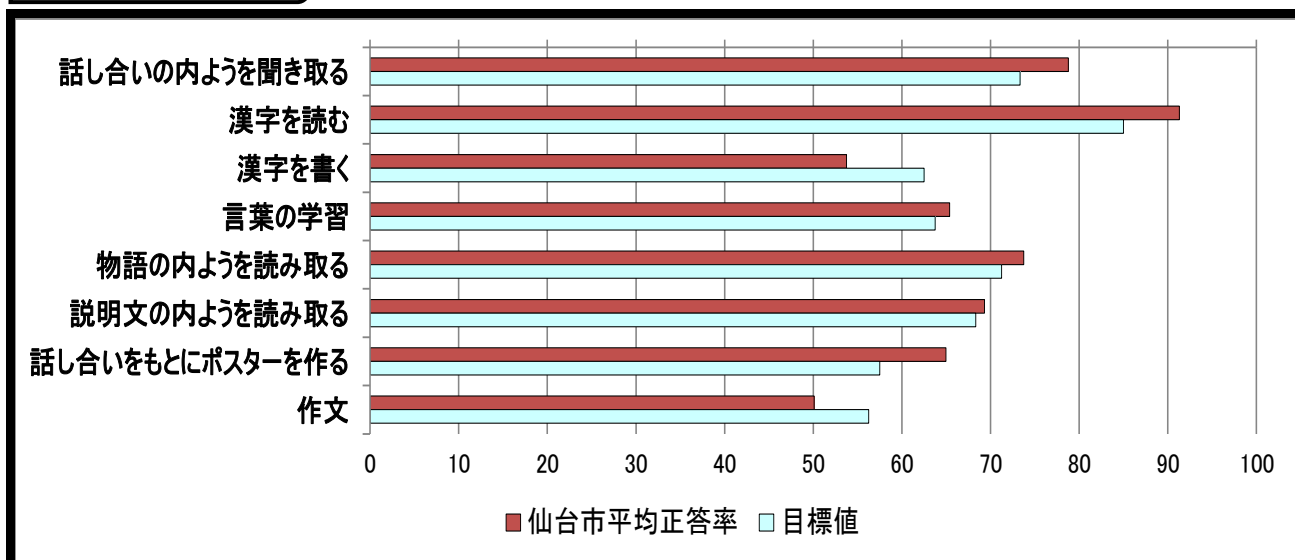
日なたの水たまりの氷が溶けた理由を記述する設問では、市平均正答率が低く、課題が見られた。「日なた」について理解はあるものの、理由を明確に記述することができなかった児童が72.3%いたことから、知識の活用がうまく出来ていないことが考えられる。

指導に当たっては、知識を増やすだけでなく、それらを活用して現象を説明する力を育成していくことが大切である。

【小学校5年生 国語】

分析結果

目標値 67.7% 市平均正答率 68.3% <4年生内容別正答率のグラフ(%)>



※目標値-5ポイント ≤ 目標値と同等 < 目標値+5ポイント

市平均正答率は目標値と同等である。(○:成果 ●:課題)

- ①「漢字を読む」では目標値を6.3ポイント上回っている。
- ②「話し合いをもとにポスターを作る」では7.5ポイント上回っている。
- ①「説明文の内容を読み取る」は目標値と同等であったが、「段落の役割を理解して、文章の内容を的確に読み取る」問題では3.6ポイント下回った。それぞれの段落のはたらきを的確に捉える力に課題があると考えられる。
- ②「作文」は目標値を6.2ポイント下回った。必要に応じてメモを基に、説明の内容・理由と呼びかけを区別して書く力に課題があると考えられる。

指導改善の方策

① 段落の役割を理解して、文章の内容を的確に読み取らせるために

「説明文の内容を読み取る」設問では、段落の役割を理解して、文章の内容を的確に読み取ることが求められている。7段落構成になっている文章の中から、「目のしくみ」についての具体の説明がどの箇所になっているかを読み取る問題になっている。しかしながら、それに続く段落で説明されている鳥の「目の違い」について、文章中の「反対に」という言葉に着目してしまい、どこまでが「目のしくみ」について書かれているか正確に捉えることができなかったと考えられる。

指導に当たっては、段落の内容を要約させ、それを基に段落の構成図を書かせることで、段落に書かれている内容と構成を捉えさせることが必要である。

② 目的や必要に応じて書き表し方を工夫するために

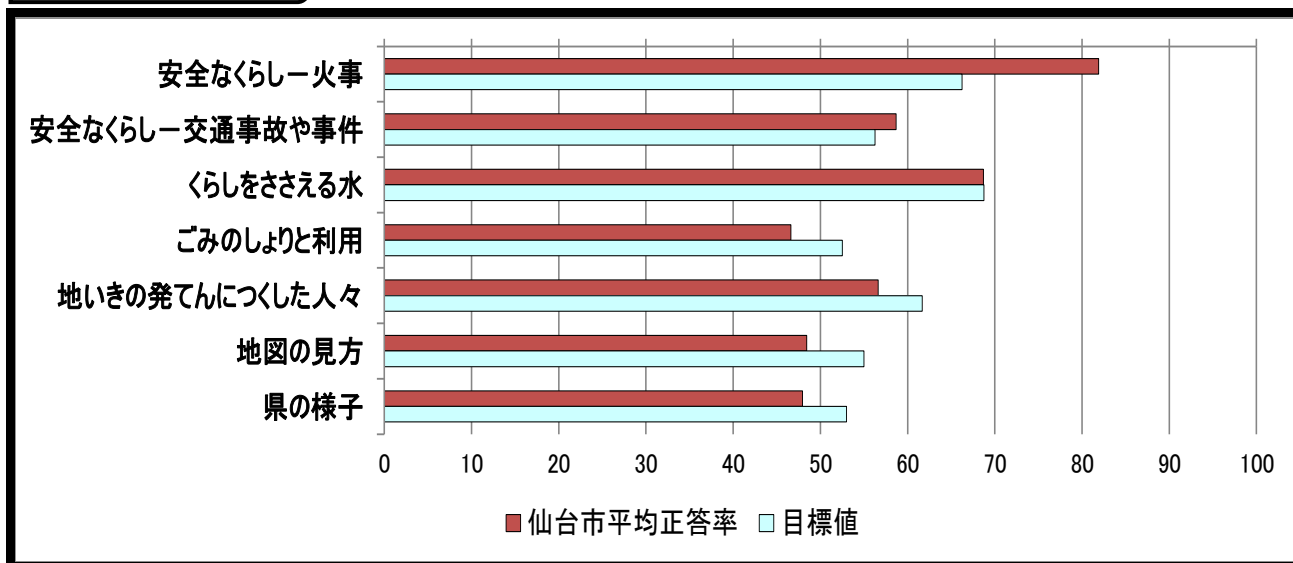
係のお知らせをわかりやすく伝えるための作文の設問では、目的や必要に応じて、メモに書かれた「お知らせの内容」や「お知らせする理由」を新聞記事に書き直すことをねらいとしている。市平均正答率は45.4%と目標値をやや下回る程度であるが、条件通りの正答は32.4%と低くなっている。メモから必要なことを書き直す際に、内容や理由を書き落としてしまっていることが原因である。話を聞いてメモを取る技能は定着していても、メモを活用する技能が不十分なためと考えられる。

指導に当たっては、目的や必要に応じてメモを活用する場面を設けることと、メモから文章に書き直すために必要な文末表現や、内容を落としていないかの振り返りをする活動を取り入れる必要がある。

【小学校5年生 社会】

分析結果

目標値 58.9% 市平均正答率 58.5% <4年生内容別正答率のグラフ(%)>



※目標値-5ポイント ≤ 目標値と同等 < 目標値+5ポイント

市平均正答率は目標値と同等である。(○:成果 ●:課題)

- ①「安全なくらしー火事」では目標値を15.6ポイント上回っている。
- ①「くらしをささえる水」の市平均正答率は目標値と同等となっている。しかし、水源としての森林の役割を問う設問で13.4ポイント目標値を下回る結果となっており、基礎的な知識の定着に課題が見られる。
- ②「地図の見方」では目標値を6.6ポイント下回っている。方位についての観察・資料活用の技能を問う設問では目標値を16.1ポイント下回っており、昨年同様、地図の見方について課題が見られる。

指導改善の方策

① 森林の役割についての基本的な知識を定着させるために

水源としての森林の働きについての設問では、誤答として「ふった雨水をそのまますぐに川に流す」を選択する児童が20.9%見られた。このことから、森林が雨水を蓄える働きを持っていることを十分に理解できていないことがうかがわれる。

指導に当たっては、水の循環について押さえるだけでなく、森林・ダム・浄水場などの働きについて、「わたしたちのまち仙台」などの副読本を活用しながら理解させていくことが重要である。その際、水源の森林が持つ働きや森林があることの良さについて、児童の言葉でまとめる活動や児童同士で説明する活動などを取り入れ、知識の定着を図るようにしたい。

② 八方位について正しく理解させるために

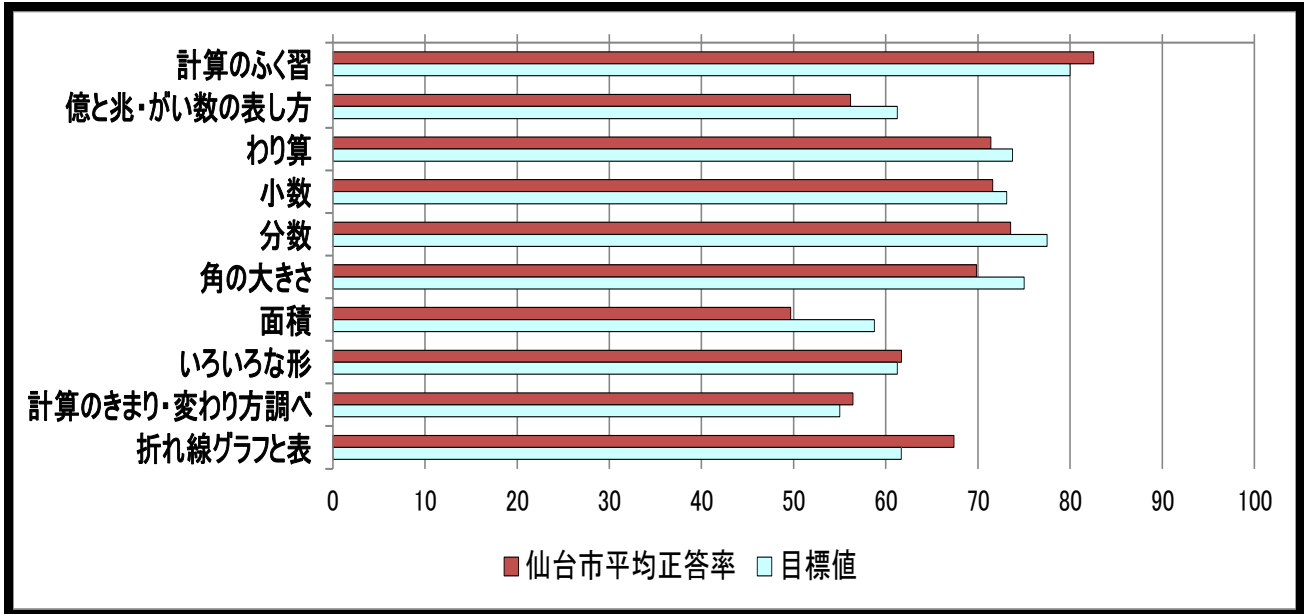
地図上における方位と地図記号を関連付けて考え、施設同士の位置関係を八方位で理解しているか問う設問では、正答の「北西」ではなく、「北東」を選択する児童が20.6%見られた。このことから、地図の上が北であることを理解していても東西の方位までの理解は不十分であることが考えられる。

指導に当たっては、「水はどこから」の学習や「県の広がり」の学習等で地図を活用する際、3年時の既習事項である八方位を活用する場面を意図的に設定した授業を行うことが重要である。また、児童の見える所に地図を掲示して活用することで、日常的に地図を見る習慣を身に付けさせるようにしたい。

【小学校5年生 算数】

分析結果

目標値 67.8% 市平均正答率 65.8% < 4年生内容別正答率のグラフ(%)>



※目標値-5ポイント ≤ 目標値と同等 < 目標値+5ポイント

市平均正答率は目標値と同等である。(○:成果 ●:課題)

- ①「計算のきまり・変わり方調べ」では、伴って変わる2つの数量の関係(比例)を式に表す設問において、目標値を7.3ポイント上回っている。
- ②「折れ線グラフと表」では、目標値を5.7ポイント上回っている。
- ①「億と兆・がい数の表し方」では、目標値を5.1ポイント下回っている。概数の理解及び理由を説明することに課題が見られる。
- ②「角の大きさ」では、分度器を使って示された角の大きさの目盛りを読み取る設問において、目標値を16.1ポイント下回っており、分度器を使って正しく角度を測ることに課題が見られる。

指導改善の方策

① 目的に応じて、概数の仕方を判断できるようにするために

パンフレットを作るまい数を、切り上げて見積もることの意味を理解した上で、枚数が足りるか判断し、その理由を説明する設問では、目標値35.0%に対し、市平均正答率が15.0%であった。「正しい」に○をつけた児童が36.8%、「正しくない」に○をつけた児童が27.1%であることから、切り上げて見積もることの意味理解に課題が見られる。また、「正しい」を選んだ36.8%のうち、21.8%は理由を説明することができていない。

指導に当たっては、どのような場面で、何のために概数で考えるのか判断し、説明できるようにさせることが大切である。

② 正しく角度を測ることができるようにするために

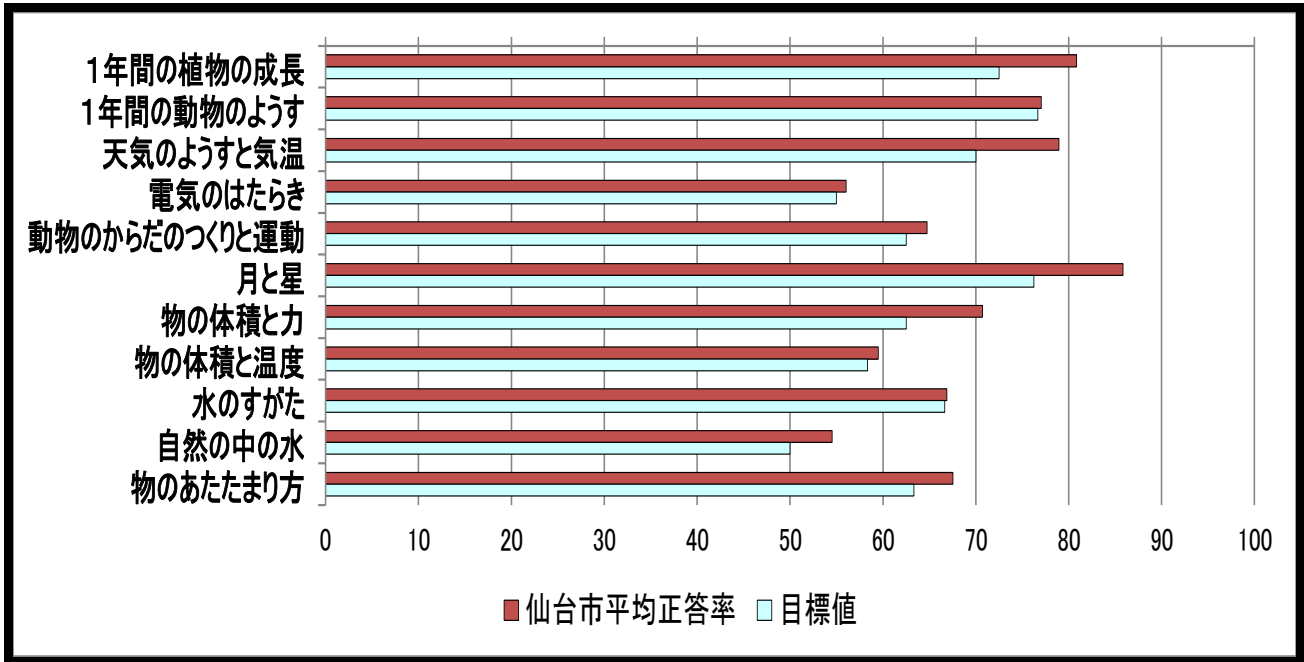
分度器を用いて角の大きさを測定する設問では、明らかに90°以上であるのに対し、誤答の65°と75°を選択した児童が31%いる。

指導に当たっては、基準となる0°がどこになるか考えさせたり、角度を測定する前におよその角度を予想させたりする指導を重点的に行うことが必要であるといえる。また、角度は4年生の前半に指導されるため、定期的に角度の測り方を再確認する時間を短時間で設けることも大切である。

【小学校5年生 理科】

分析結果

目標値 65.3% 市平均正答率 69.6% <4年生内容別正答率のグラフ(%)>



※目標値-5ポイント ≦ 目標値と同等 < 目標値+5ポイント

市平均正答率は目標値と同等である。(○:成果 ●:課題)

- ①「天気の様子と気温」では、目標値を9.0ポイント上回っている。
- ②「月と星」では、目標値を9.6ポイント上回っている。
- ①「電気のはたらき」では、光電池に関する設問で、目標値を4.3ポイント下回っている。太陽の動きと、光電池の働きを関係付けて捉えることに課題がある。
- ②「水のすがた」では、沸騰石に関する設問で、目標値を11.4ポイント下回っている。水を熱するとき沸騰石を入れる理由の理解に課題がある。

指導改善の方策

① 光電池への日光の当たり方と電流の大きさとの関係を理解できるようにするために

街灯の光電池を南向きに設置する理由を記述する設問では、目標値65.0%に対し、市平均正答率が60.7%で、4.3ポイント下回っている。また、説明の中に「よく」や「効率」のような、キーワードを含まないものが10.8%あった。

指導に当たっては、光電池に当てる光の強さと回路に流れる電流の強さの関係を捉えさせるよう指導することが必要である。

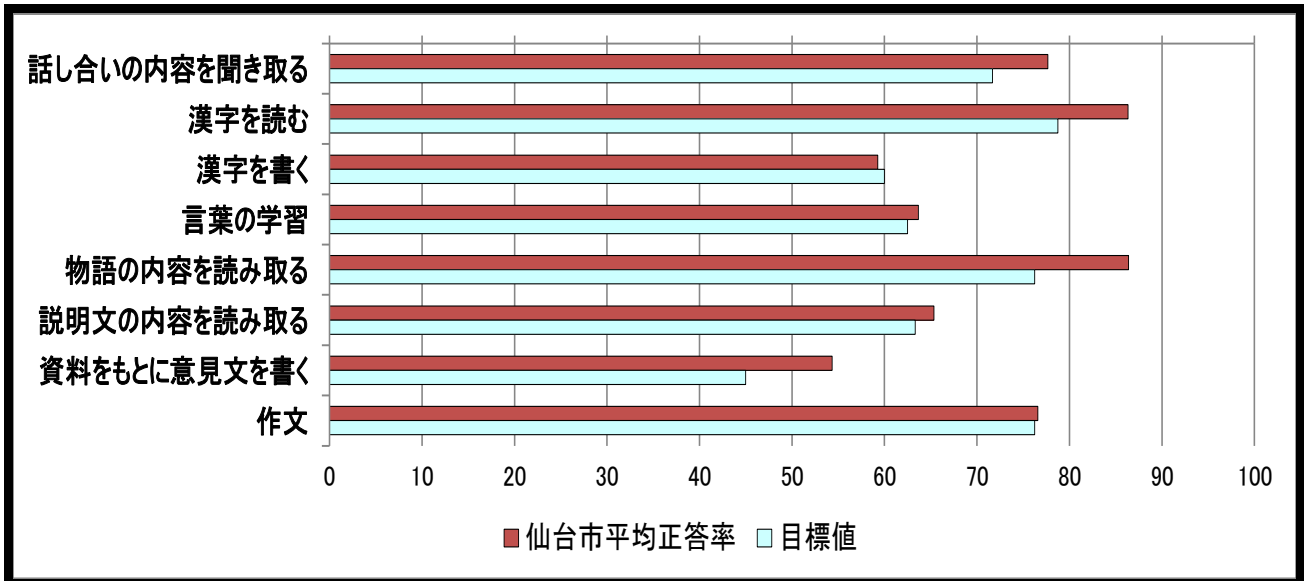
② 沸騰石を入れる必要性を理解することができるようにするために

「水のすがた」では沸騰石に関する設問において、目標値80.0%に対し、市平均正答率が68.6%と大きく下回っている。沸騰石を入れる理由として、速く沸騰させたり、泡を大きくさせたりという選択肢を選ぶものが多く、沸騰石を入れる理由を捉えることができていないことがうかがえる。突沸とはどういうことか、また、なぜ起こるのかを理解させ、安全に実験を行うよう指導していく必要がある。

【小学校6年生 国語】

分析結果

目標値 68.2% 市平均正答率 72.4% <5年生内容別正答率のグラフ(%)>



※目標値-5ポイント ≤ 目標値と同等 < 目標値+5ポイント

市平均正答率は目標値と同等である。(○:成果 ●:課題)

- ①「物語の内容を読み取る」では、目標値を10.1ポイント上回っている。
- ②「資料をもとに意見文を書く」では、目標値を9.3ポイント上回っている。
- ①「漢字の成り立ちについて理解している」では、目標値を6.7ポイント下回っている。漢字の由来に関心が低く、漢字の成り立ちの理解が不十分であると考えられる。
- ②「与えられた情報を読み取り、適切な内容を補って文章を書くことができる」では、目標値を10.1ポイント上回っているものの、64.6%が誤答または記述が不十分な解答である。意見部分についての記述や、適切な内容を補って文章を書くことに課題があると考えられる。

指導改善の方策

① 漢字の成り立ちを理解するために

「草」のように意味を表す部分と、音を表す部分を組み合わせでできた漢字を「鳴・林・洋・明」の中から選択する設問では、市平均正答率が28.3%にとどまっている。誤答をみると、会意文字(意味を合わせたもの)と、形成文字(音を表す漢字と意味を表す漢字を組み合わせたもの)の区別ができていないと思われる。

指導に当たっては、漢字の部首をしっかりと理解させ、さらに、部首には意味があることを押さえさせながら指導していく必要がある。また、新出漢字を学習する際にも、同様の指導を行っていくことが重要である。

② 与えられた情報を読み取り、適切な内容を補って文章を書くために

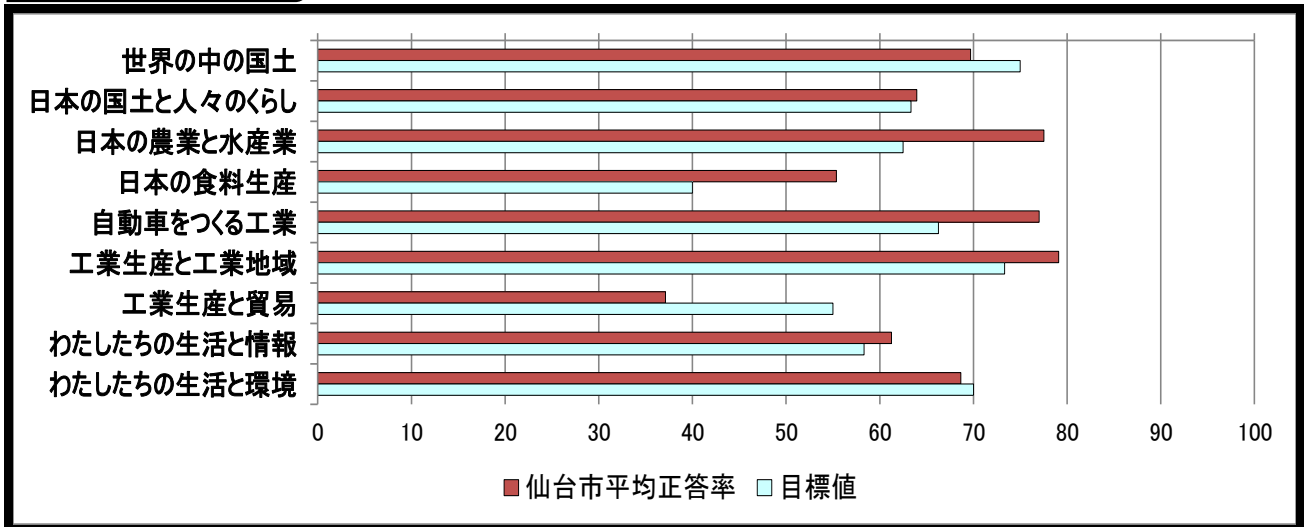
与えられた情報を読み取り、適切な内容を補って文章を書く設問では、誤答または記述が不十分な解答が多く見られた。最後の段落の「つまり」という言葉に着眼し、書き手の一番言いたい一文(適切な内容)を基に文章を書くことができなかつたと思われる。

指導に当たっては、資料から必要な情報を読み取らせ、その資料のどの部分を活用すべきか判断させ、適切な語句を補いながら文章を書かせる指導をしていく必要がある。また、高学年では特に「読み」の力について、頭括型・尾括型・双括型という基本となる文章構成を基本的な知識として持ち、筆者の主張を見つけれられることが大切である。ここでしっかりと基本となる文章構成(頭括・尾括・双括)を理解させることも重要である。

【小学校6年生 社会】

分析結果

目標値 63.0% 市平均正答率 68.0% < 5年生内容別正答率のグラフ(%)>



※目標値-5ポイント ≤ 目標値と同等 < 目標値+5ポイント

市平均正答率は目標値を上回っている。(○: 成果 ●: 課題)

- ① 「日本の農業と水産業」では、目標値を 15.0 ポイント上回っている。
- ② 「日本の食料生産」では、目標値を 15.4 ポイント上回っている。
- ① 「世界の中の国土」の日本の位置と領土に関する設問において、目標値を 16.9 ポイント下回っている。
- ② 「工業生産と貿易」の日本が多く輸入している原材料を表す「資源」という語句を問う設問において、目標値を 27.6 ポイント下回っている。

指導改善の方策

① 日本の位置や領土に関する基礎的な知識を定着させるために

日本の位置や領土に関する説明の中から正しい記述を選択させる設問では、誤答の「日本の国土のうち、最も大きい島は北海道である」を選択した児童が多く見られた。最も大きい島を本州ではなく北海道と誤認したままの児童が多いことがうかがわれる。また、地図を見てユーラシア大陸を確認し、日本がその東側に位置していることを認識できないなど、日本の位置や領土に関する基礎的な知識の定着が不十分であることもうかがわれる。

指導に当たっては、基礎的な知識の定着を図るため、地図帳や地球儀を活用し、日本の位置や領土、日本の周りの国々について調べ、分かったことを白地図やノートに表現させることが大切である。また、継続して地球儀や地図帳に親しむ機会を設け、児童が楽しみながら学習に取り組むことができるように工夫することで、基礎的な知識の定着をより確かなものにしていくことができると考える。

② 習得した知識を活用できるようにするために

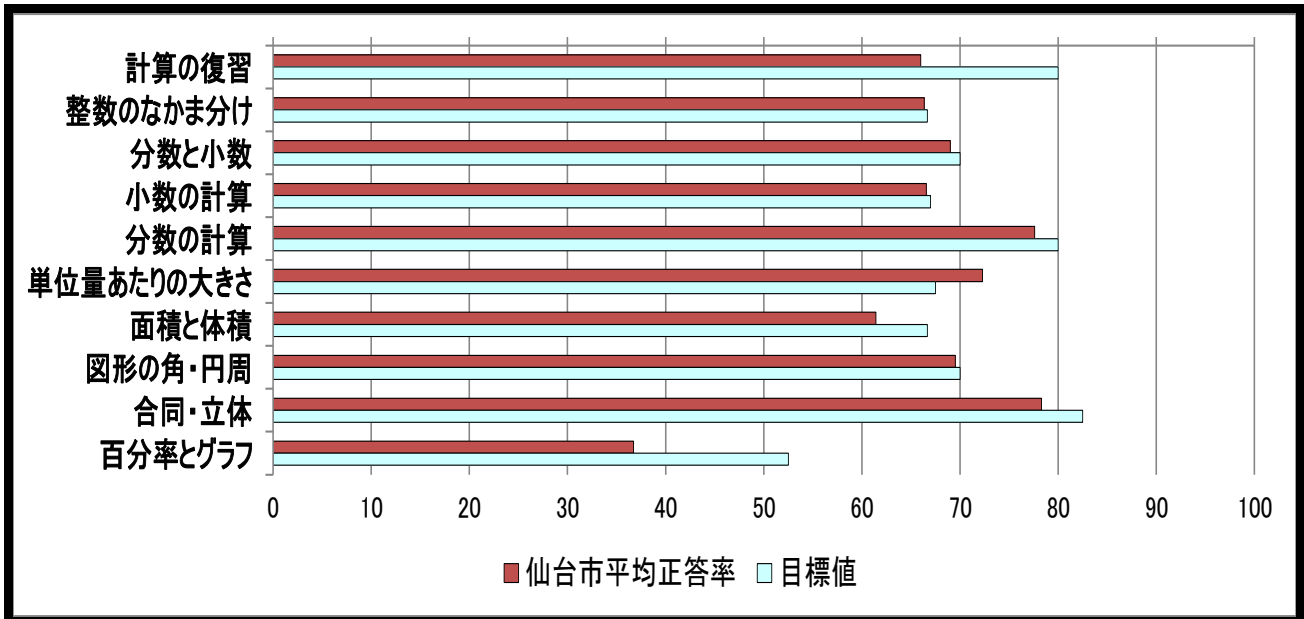
日本の輸出入額の品目別割合を示したグラフを基に、日本が多く輸入している石油をはじめとする燃料や原料を表す「資源」という語句を問う設問では、誤答や無解答の児童の割合が多く見られた。その要因には、今回出題された「工業生産と貿易」の単元における教科書の記述に、「資源」という語句が大きく取り上げられておらず、たとえ「資源」という語句は知っていても、具体的にどのようなものを指すのか理解しておらず、石油や石炭と結び付けられなかったことが挙げられる。

指導に当たっては、日本の輸入品目の中で、石油をはじめとする燃料や原料の割合が大きいのは、「資源」に乏しいからという事実を押さえる必要がある。さらに、授業の終末場面において、重要語句を踏まえながら日本の輸入の特色を説明させる機会を設けることで、習得した知識を活用する力を育成することができると考える。

【小学校6年生 算数】

分析結果

目標値 69.6% 市平均正答率 66.6% < 5年生内容別正答率のグラフ(%)>



※目標値-5ポイント ≤ 目標値と同等 < 目標値+5ポイント

市平均正答率は目標値と同等である。(○:成果 ●:課題)

- ① 「単位量あたりの大きさ」では、目標値を4.8ポイント上回っている。
- ① 「面積と体積」では、目標値を5.3ポイント下回っている。情報を適切に取り取り、問題解決することに課題が見られる。
- ② 「百分率とグラフ」では、目標値を15.8ポイント下回っている。割合について理解し、基準量を求めたり、比較量を求めたりすることに課題が見られる。

指導改善の方策

① 情報を整理して、自ら段階を踏みながら問題解決するために

複合図形の面積に関する設問では、与えられた情報を読み取り、既習事項を生かして、問題解決することをねらいとしているが、市平均正答率は低くなっている。たくさんの情報に惑わされてしまい、必要な情報を見つけだし、題意を整理して考えることができなかつたものと思われる。特に、説明を記述する設問については、無解答率が41.2%と高くなっている。

指導に当たっては、与えられた情報を図式化するなど工夫しながら、整理してから問題を解けるように指導をしていく必要がある。また、自分の考えを説明したりまとめたりするような言語活動の充実も大切である。

② 割合の和や差が意味をもつことを理解できるようにするために

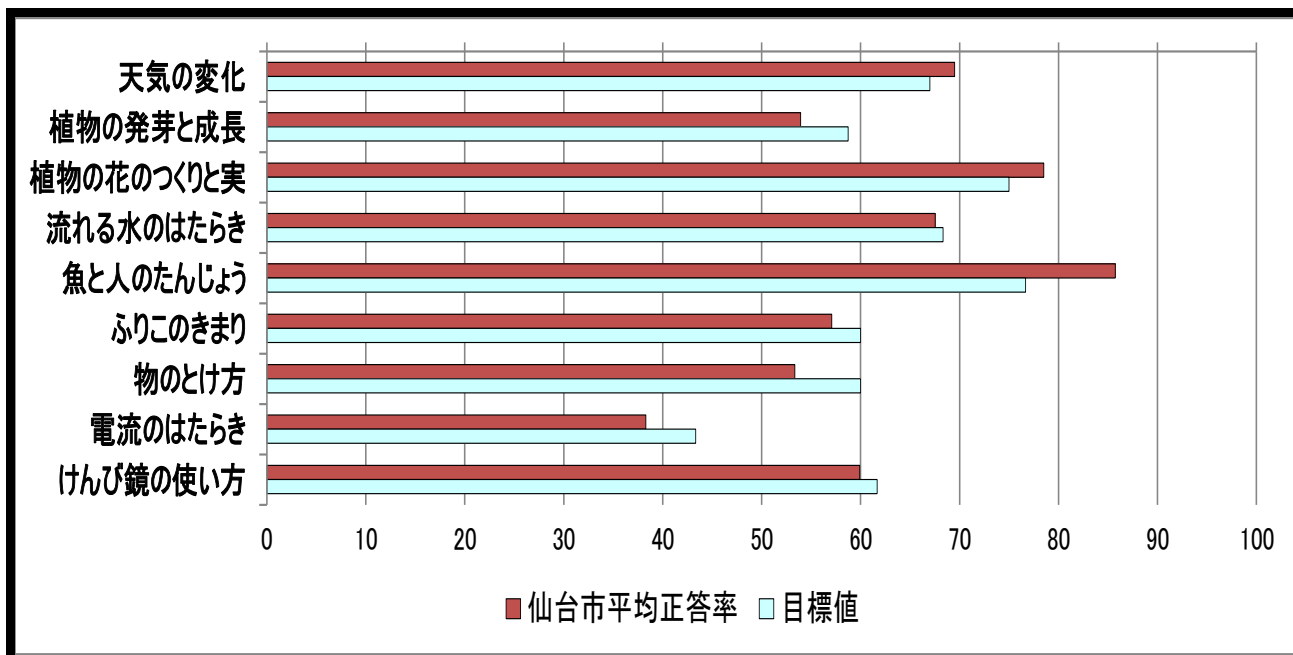
和や差を含んだ割合から比較量を求める設問において、目標値が45.0%に対して、市平均正答率は25.2%であった。誤答分析から、問題の割合を示す数値が、求めたい比較量の割合を示す数値だと誤って判断してしまったと考えられる。

指導に当たっては、比較量の「○%引き」という割合を示す数値が、割合が1より小さい場合でも、比較量の求め方が(基準量)×(割合)になることを視覚的に捉えさせるようにする。また、絵や図に表したり、数直線や線分図などを活用したりして、数量の関係を明確に捉えることが大切である。

【小学校6年生 理科】

分析結果

目標値 64.7% 市平均正答率 64.9% <5年生内容別正答率のグラフ(%)>



※目標値-5ポイント ≤ 目標値と同等 < 目標値+5ポイント

市平均正答率は目標値と同等である。(○:成果 ●:課題)

- ① 「魚と人のたんじょう」では、目標値を9.0ポイント上回っている。
- ② 「物のとけ方」では、目標値を6.6ポイント下回っている。物は水に溶けても重さは変わらないことの理解に課題がある。
- ③ 「電流のはたらき」では、目標値を5.0ポイント下回っている。電磁石の性質の理解に課題がある。

指導改善の方策

① 物を水に溶かす前と溶かした後では、全体の重さが変わらないことを理解できるようにするために

物を水に溶かした後の水溶液の重さについての設問では、水50mL(50g)とミョウバン10gを溶かした水溶液の重さとして、50gと記入した児童が12.5%いた。このことから、物を水に溶かすと重さがなくなると誤認していることが考えられる。

指導に当たっては、実験に至るまでの「問題の把握・設定」「予想・仮説の設定」「検証計画の立案」を丁寧に扱い、児童一人一人が課題意識を持って実験に臨むことが大切である。

② 電磁石の性質をより深く理解するために

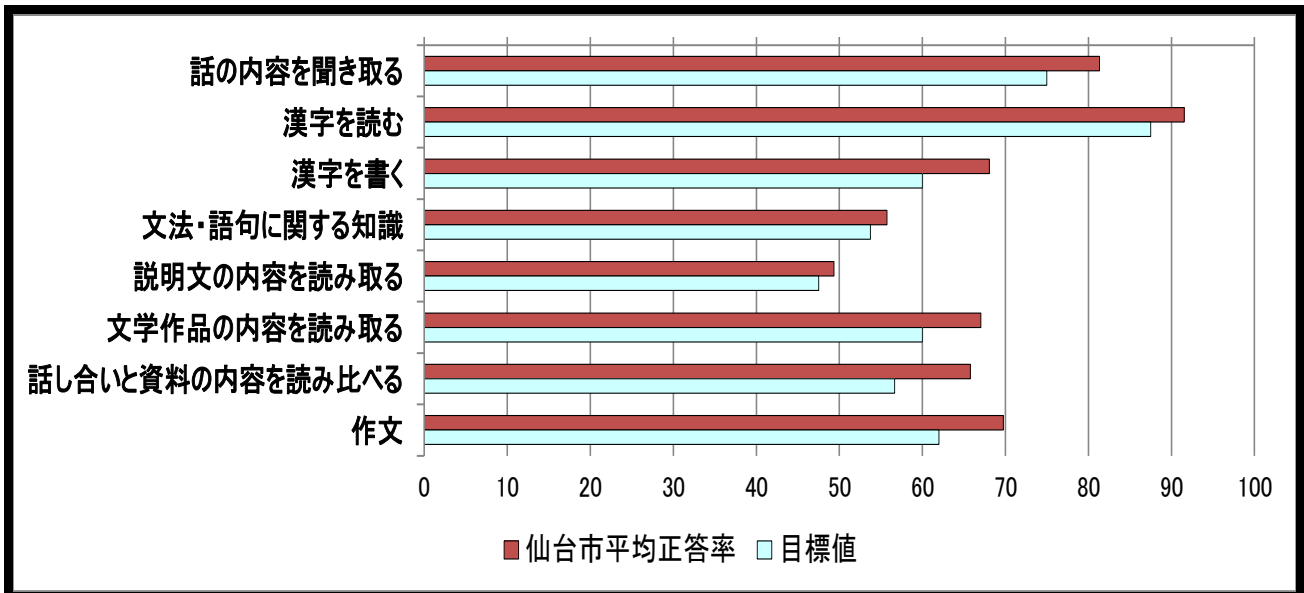
電磁石を置いたときの方位磁針の針の向きを問う設問では、乾電池の向きが変わり、回路に流れる電流の向きが変わっているにもかかわらず、方位磁針の針は変わらないと答えた児童が半数以上に上った。このことから、電磁石の性質の理解が不十分だと考えられる。

指導に当たっては、教科書に記載されている「電磁石の性質を調べる実験」を行う際、検流計を効果的に活用したり、方位磁針の向きから電磁石の極を考える練習をさせたりすることが有効である。

【中学校 1 年生 国語】

分析結果

目標値 63.0% 市平均正答率 68.7% < 6 年生内容別正答率のグラフ(%)>



※目標値-5ポイント ≤ 目標値と同等 < 目標値+5ポイント

市平均正答率は、目標値を上回っている。(○：成果 ●：課題)

- ①「文学作品の内容を読み取る」では、目標値を 7.1 ポイント上回っている。
- ②「話し合いと資料の内容を読み比べる」では、目標値を 9.1 ポイント上回っている。
- ①「文法・語句に関する知識」では、言葉の使い方ですべて正しい「慣用句」を選ぶ設問において、目標値を 5.3 ポイント下回っている。二つ以上の語が結び付いて元の意味とは違った特定の意味を表すものや、言い表し方についての知識・理解に課題がある。
- ②「説明文の内容を読み取る」は、目標値とほぼ同等であったが、文章で述べられている内容に合うものを選ぶ設問において、目標値を 2.0 ポイント下回った。文章の展開に即して、内容を的確に捉える力に課題が見られる。

指導改善の方策

① 言葉の意味や使い方を理解させるために

慣用句の正しい意味と使い方についての設問では、「高をくくる（その程度を安易に予測する）」という言葉で誤答が多く見られた。要因として、意味理解が不十分なことが考えられる。また、言葉の意味のつながりまで考えずに、誤った選択肢を選んでいることが推測される。

指導に当たっては、文例からその意味を考えさせた上で、語句の意味を調べるようにさせ、様々な文の中での使われ方についても触れるようにする。また、その語を用いた文づくりをさせるなど、自分の体験とも結び付けさせながら、言葉のつながりを意識した指導をしていく必要がある。

② 文章の展開に即して内容を的確に捉えさせるために

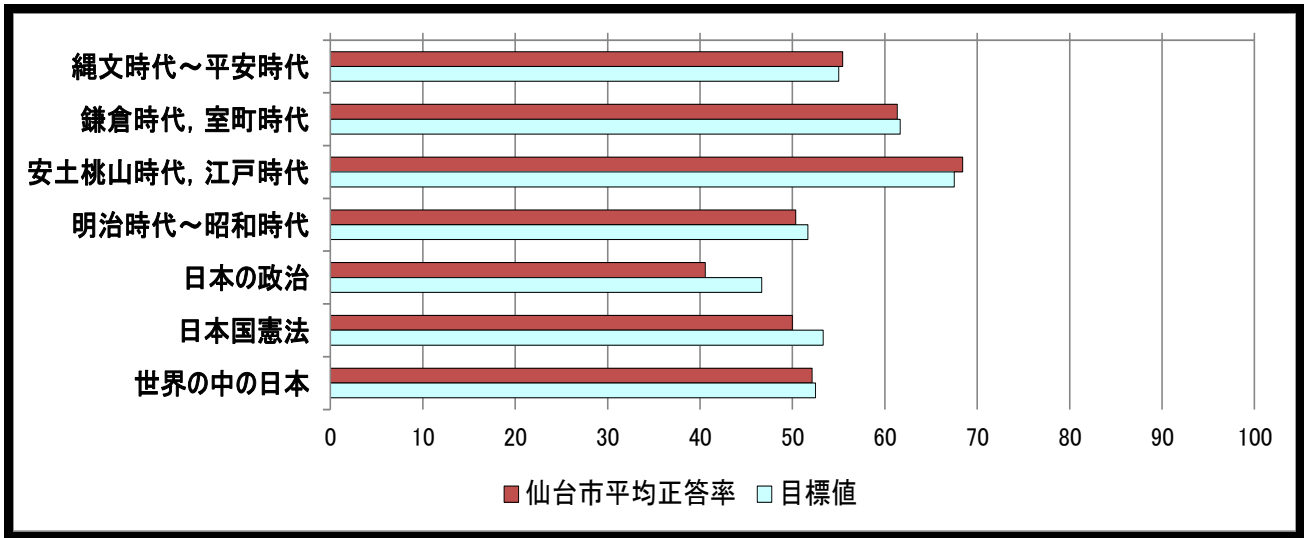
「説明文の内容を読み取る」設問において、文章の展開に即して内容を捉えることができなかった児童が多く見られた。文章全体の構成と展開を押さえ、書かれている内容を的確に読み取る必要がある。

指導に当たっては、「問題提起」「課題提示」「一つ目の答え」「二つ目の答え」「まとめ（筆者の意見）」などの文章全体の構成や展開を押さえさせるとともに、話の核となる部分の内容を丁寧に読み取り、要旨を的確に捉えさせることが大切である。

【中学校 1 年生 社会】

分析結果

目標値 55.2% 市平均正答率 54.0% < 6 年生内容別正答率のグラフ(%)>



※目標値－5ポイント ≤ 目標値と同等 < 目標値＋5ポイント

市平均正答率は目標値と同等である。(○：成果 ●：課題)

- ①「縄文時代～平安時代」, 「安土桃山時代～江戸時代」における市平均正答率は, 目標値を上回っている。
- ①「平安時代」の貴族が生活していた住宅様式である寝殿造について, 記述で解答する設問では, 目標値を 22.4 ポイント下回っていることから, 当時のくらしの様子や文化についての理解が不十分であると考えられる。
- ②「日本の政治」の予算について記述で解答する設問について, 目標値を 12.3 ポイント下回っていることから, 「我が国の政治」についての理解に課題が見られる。

指導改善の方策

① 時代ごとのくらしや特徴的な文化についての理解を深めるために

貴族が生活していた当時の屋敷のつくりである「寝殿造」について問う設問では, 誤答が多く見られた。設問の写真から, 貴族の生活や代表的な文化遺産を通して, 貴族が権力を持っていた時代であることや日本風の文化が起こったことを想起する必要があるが, 「書院造」と解答した生徒が多かったことから, 時代を混同して理解していることがうかがえる。また, その時代の政治の中心や特徴的な文化に関する理解が定着していないことが考えられる。

指導に当たっては, 歴史上の重要人物の活躍だけに目がいかないよう, 人々のくらしにも焦点を当てて調べさせたり, 考えさせたりすることが重要である。また, 文化については, 特徴がよく分かる具体的な資料に触れてじっくり見る機会を設け, 時代背景をふまえて特徴を整理させるようにする。

② 政治の方針を実現するための仕組みを理解できるようにするために

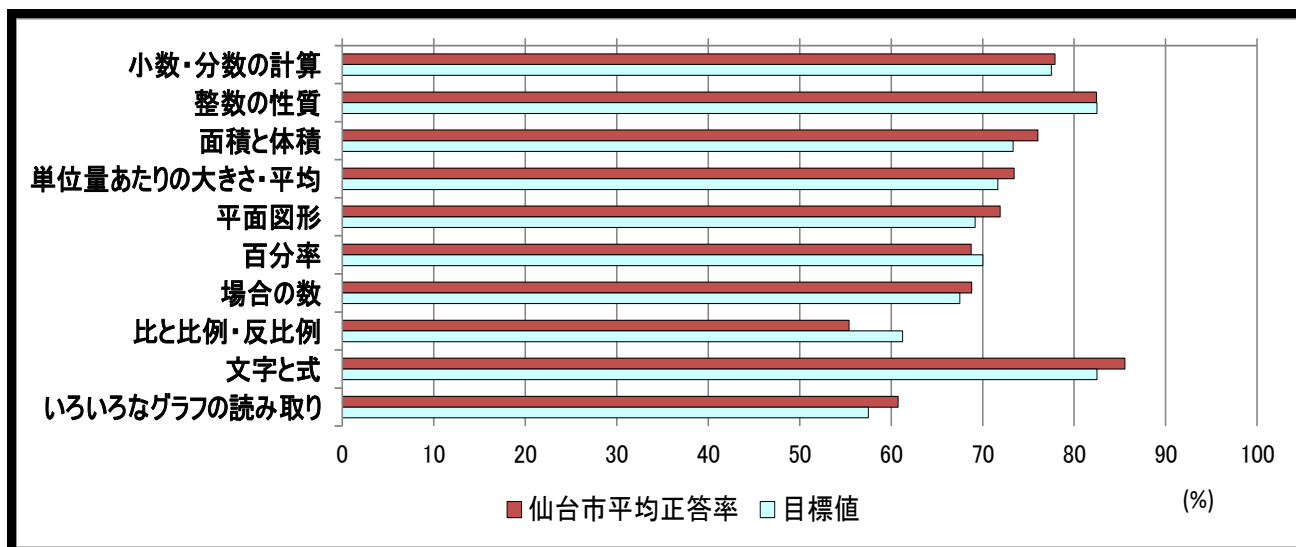
政治の方針を実現するための「予算」の意味について問う設問では, 市平均正答率が低く, 無解答率も 41.7% と高かった。問題文の「お金がどのくらい得られる見通しで, 何にどのくらい使うかの計画を, 1 年ごとに立てています。」という箇所に着目して解答を導くとよいのだが, 政治の方針を実現するまでの流れについての理解が定着していないことが考えられる。

指導に当たっては, チャート等を用いて, 人々の願いを反映した政治の方針が, どのような過程を経て実現するのかを丁寧に, 順序立てて指導することが重要である。また, 視覚的に整理させるだけでなく, 「人々の願い→計画・予算案→賛成の議決→願いの実現」といった流れを自分の言葉で説明できるようにさせることも大切である。

【中学校 1 年生 数学】

分析結果

目標値 71.2% 市平均正答率 72.0% < 6 年生内容別正答率のグラフ(%)>



※目標値-5ポイント ≤ 目標値と同等 < 目標値+5ポイント

市平均正答率は目標値と同等である。(○：成果 ●：課題)

- ① 「平面図形」では、線対称な図形を選ぶ設問で目標値を 8.5 ポイント上回っており、概ね良好である。
- ① 「百分率」では、割引後の代金を求める式を選ぶ設問において、目標値を 7.0 ポイント下回っている。百分率で 20% と表された割合と小数で 0.2 と表された割合が同じ割合を表していることは理解しているが、割引後の代金の求め方に課題がある。
- ② 「いろいろなグラフの読み取り」では、割合が $\frac{1}{2}$ になっていても、もとにする量が異なるときは、比べる量は $\frac{1}{2}$ にならないことを説明する設問で、目標値を 2.9 ポイント上回っているが、目標値自体が 30.0% と低く、基準量と比較量の関係についての理解に課題があると考えられる。

指導改善の方策

- ① 日常の中にある増量や値引きの意味を理解し、基準量と比較量、割合の関係を正しく捉えることができるようにするために

定価 3000 円に対して定価の 20% 引き後の値段を表している式を選ぶ問題では、「 3000×0.2 」を選択した誤答率が 29.2% であった。定価の 20% には着目できたが、問題で問われていることを捉えられず、定価の 20% 引き後の値段ではなく、値引きされる金額に着目して判断したと考えられる。「定価の 20%」と「定価の 20% 引き」という表現の違いが理解できていない児童もいると考えられる。

指導に当たっては、第 5 学年で割合を考える場面で用いられる言葉の意味を改めて振り返らせながら、テープ図などと対応させて数量関係を捉えることができるようにすることが大切である。さらに、第 6 学年では比の学習を活用して、もう一度割合について習熟を図り、図の意味を話し合う活動やノートに書き表す活動を取り入れ、的確な言葉を用いて説明することができるように指導することが必要である。

- ② グラフの特徴を基に、基準量と比較量、割合の関係を正しく読み取ることができるようにするために

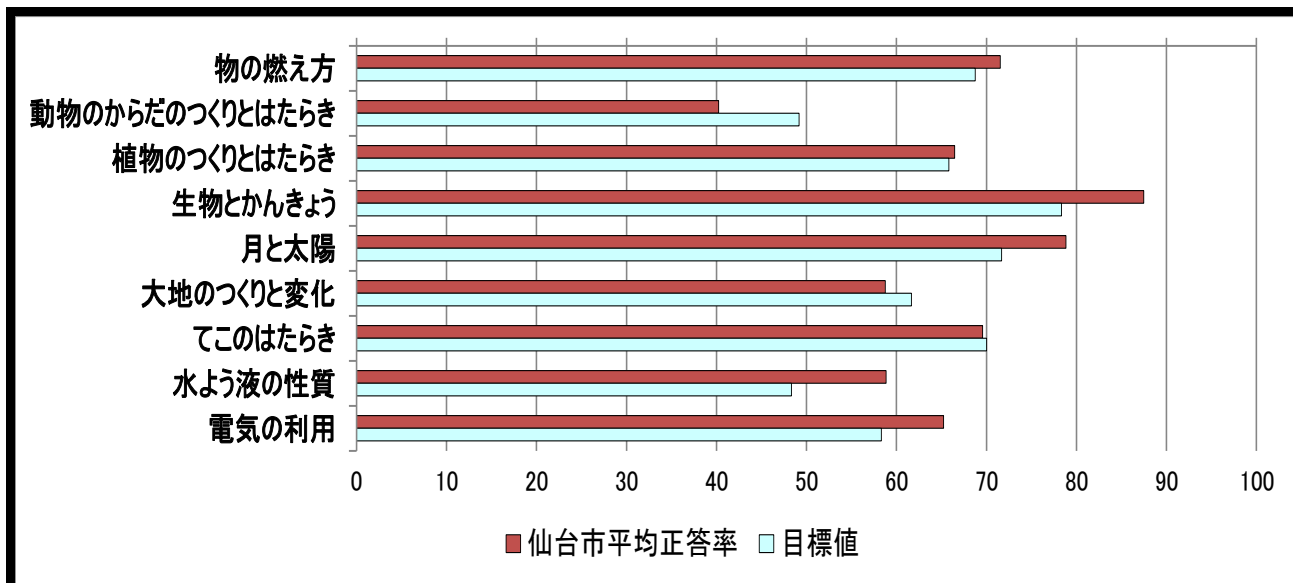
1990 年と 2010 年のアメリカ合衆国への輸出額の割合が $\frac{1}{2}$ になったとき、比較量である輸出額も $\frac{1}{2}$ になるという記述が正しいか、正しくないかを選び、その判断理由を説明する問題では、市平均正答率は 32.9% と低く、「正しい」と誤った解答をした生徒が 41.4% いた。このことから、割合が $\frac{1}{2}$ であれば比較量も同じく $\frac{1}{2}$ になると円グラフから判断したと考えられる。

指導に当たっては、割合には基準量と比較量の二つの量と関係していることを理解できるようにすることが大切である。例えば、割合が $\frac{1}{2}$ に変化しても、基準量が異なれば比較量も変化することを捉えさせる。数量関係を図にかく活動を取り入れたり、表した図を解釈したりして、基準量と比較量の両方で割合の大小が決まることを捉えさせることが大切である。

【中学校 1 年生 理科】

分析結果

目標値 62.6% 市平均正答率 64.2% < 6 年生内容別正答率のグラフ(%)>



※目標値-5ポイント ≤ 目標値と同等 < 目標値+5ポイント

市平均正答率は目標値と同等である。(○: 成果 ●: 課題)

- ①「水よう液の性質」では、目標値を 10.5 ポイント上回っている。
- ①「植物のつくりとはたらき」では、植物のからだには決まった水の通り道があること、の理解を問う設問において、目標値を 5.1 ポイント下回っている。植物の根、茎、葉の水の通り道の違いを捉えることに課題がある。
- ②「大地のつくりと変化」では、地層の観察で見られた粒の様子から、どの地層から採取したのかを推測することができるかを問う設問において、目標値を 10.4 ポイント下回っている。粒の特徴と地層に含まれる構成物を関連付けて捉えることに課題がある。

指導改善の方策

① 植物のからだには決まった水の通り道があることが分かるようにするために

ホウセンカの体内の水の通り道について問う設問では、誤答として、葉の付け根に色水がすべて染まっているものを選択する児童が約 50%いた。このことから、ホウセンカの体内の水の通り道が部位ごとに決まっていることが正しく理解できていないことが考えられる。

指導に当たっては、植物の体内の水の通り道を観察・実験する際に、染色したホウセンカを実際に切りながら観察させ、根、茎、葉の水の通り道の違いや、茎から葉へのつながりなどの通り道の連続性にまで目を向けられるようにすることが重要である。

② 粒の様子から、粒を採取した地層を推測することができるようにするために

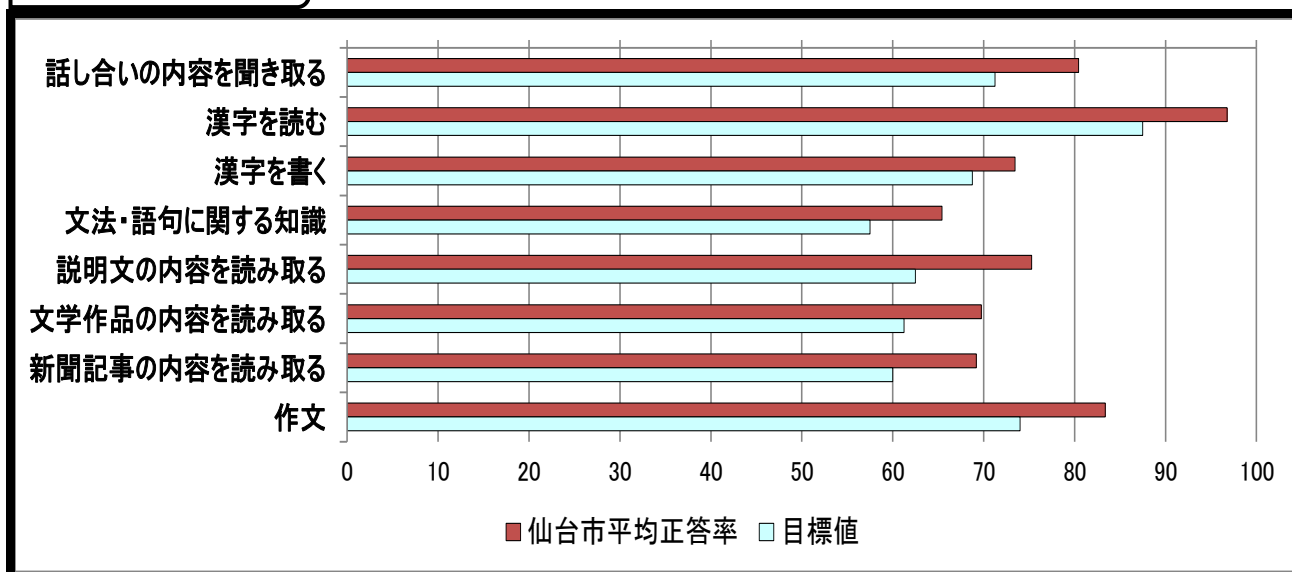
地層に含まれる粒の様子から、粒を採取した地層を推測する設問では、約 40%の児童が粒の様子と地層に含まれる構成物を関連付けて推測できていなかった。このことから、どろ、砂、れき、火山灰の粒の特徴とそのでき方の関係を正しく理解できていないことが考えられる。

指導に当たっては、実際にどろ、砂、れき、火山灰の様子を観察し、その特徴から、流れる水の働きや火山の噴火によってできたことについて推論して捉えることができるようにしていくことが必要である。

【中学校2年生 国語】

分析結果

目標値 68.3% 市平均正答率 77.2% <1年生内容別正答率のグラフ(%)>



※目標値-5ポイント ≤ 目標値と同等 < 目標値+5ポイント

市平均正答率は目標値を上回っている。(○: 成果 ●: 課題)

- ① 「話し合いの内容を聞き取る」では、目標値を9.2ポイント上回っている。
- ② 「漢字を読む」では、目標値を9.3ポイント上回っている。
- ③ 「説明文の内容を読み取る」では、目標値を12.8ポイント上回っている。
- ④ 「新聞記事の内容を読み取る」では、目標値を9.2ポイント上回っている。
- ⑤ 「作文」では、目標値を9.4ポイント上回っている。
- ① 「文学作品の内容を読み取る」では、登場人物の人物像を捉える設問で、市平均正答率が目標値と同程度の62.4%にとどまった。登場人物の心情や行動、情景描写などに注意しながら読む力に課題があると考えられる。
- ② 「新聞記事の内容を読み取る」では、新聞記事の内容に合った写真を示す場面を理由とともに述べる設問で、無解答率が高い。文章と図表を関連付けながら読む力に課題があると考えられる。

指導改善の方策

① 登場人物の心情や行動、情景描写に注意して読み取ることができるようにするために

登場人物の心情や行動、情景描写などに注意しながら読み、人物像を捉える設問では、文章中に情景描写がほとんど使われていないため、難しかったものと推測される。

指導に当たっては、登場人物の言葉や行動を表す描写、情景描写に着目し、それらがどのような心情や人物像を表しているのかを捉えられるよう指導していく必要がある。

② 図表や写真の役割を捉えることができるようにするために

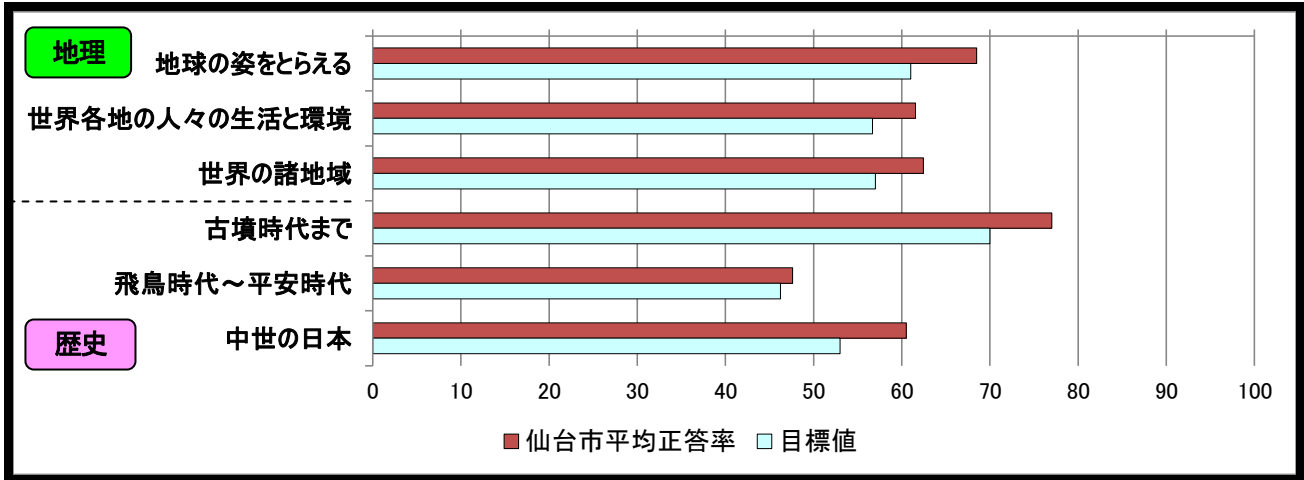
「和食の特徴」を表す新聞記事に写真を示すには、どの記事の場面が適切かを選択する設問では、新聞記事の【下書き】の内容を踏まえながら理由を述べなければならない。誤答分析から、写真を選んだ理由について、自分の考えを支える根拠となる部分を文章中から挙げられないなど、文章から読み取った情報と写真の特徴を関連付けて理由をまとめることが難しかったと考えられる。

指導に当たっては、図表や写真が、文章のどの内容をより分かりやすくするために使われているのか、あるいは、文章が図表の解説になっているのかなど、どのような目的や役割を持っているのかを押しささせながら指導していくようにする。

【中学校2年生 社会】

分析結果

目標値 55.8% 市平均正答率 61.0% < 1年生内容別正答率のグラフ(%)>



※目標値-5ポイント ≤ 目標値と同等 < 目標値+5ポイント

市平均正答率は目標値を上回っている。(○：成果 ●：課題)

- ①「地球の姿をとらえる」では、目標値を7.5ポイント上回っている。
- ②「古墳時代まで」では、目標値を7.0ポイント上回っている。
- ③「世界各地の人々の生活と環境」では、目標値を4.9ポイント上回っているが、雨温図から世界各地の都市を判断する設問において、目標値を6.5ポイント下回っている。
- ④「飛鳥時代～平安時代」の大化の改新について問う設問では、目標値を6.4ポイント下回っている。
- ⑤「飛鳥時代～平安時代」の国風文化の背景について記述する設問では、目標値を3.7ポイント下回っている。

指導改善の方策

① 雨温図を判断するために

この設問は、グラフA～Cの雨温図と、地図上のボゴタ、ムンバイ、クアラルンプールの3つの都市を関連付けさせる問題である。雨温図から高山気候、サバナ気候、熱帯雨林気候であることが分かれば答えることができる問題である。ボゴタが高山気候と判断できずに解答したと思われる誤答が52.6%と高く、都市の位置と地形、気候の理解に課題が見られる。

指導に当たっては、高山気候として取り上げたボゴダは、アンデス山脈に位置し、赤道直下ではあるが、標高が高いため1年を通して冷涼な気候であることを押さえ、気温や降水量の変化も少ないことを指導していく必要がある。また、暑い地域、温暖な地域、寒い地域、乾燥した地域を取り上げる際も、それぞれ地図と雨温図を関連付けながら、気候の様子を捉えさせる指導をしていくことが重要である。

② 大化の改新の政治について理解するために

この設問では、大化の改新の歴史的事象の意味について理解しているかが問われている。誤答として「蘇我氏と協力して天皇中心の政治制度を整えた」「遣隋使を派遣して、中国の進んだ制度や文化を取り入れようとした」など、聖徳太子が行った政治を選択した生徒が50%を超えている。また、奈良時代の出来事についての選択肢を答えた生徒も一定数おり、正しく理解していない生徒が多いことがうかがえる。それぞれの選択肢がいつの時点での出来事かを時系列で理解しているか、あるいは大化の改新で行われたことを正しく理解していれば正答できた問題である。

指導に当たっては、聖徳太子が蘇我氏と協力して政治を進めたが、彼の死後、蘇我氏が大きな力を得たため、天皇中心の政治を願い、蘇我氏を倒すことになったことを、事象の関連について図で表現したり、事象間を線や矢印で結ぶなどして因果関係を整理したりするなど、その時代の特色と関連付けながら理解できるようにする。

③ 平安時代の文化が生まれた背景を理解させるために

この設問では、年表中の「都を平安京に移す～院政が始まる」までが、平安時代にあたることを踏まえたうえで、国風文化が発達した背景について、日本と中国（唐）との関係の変化に着目して説明する力が求められている。

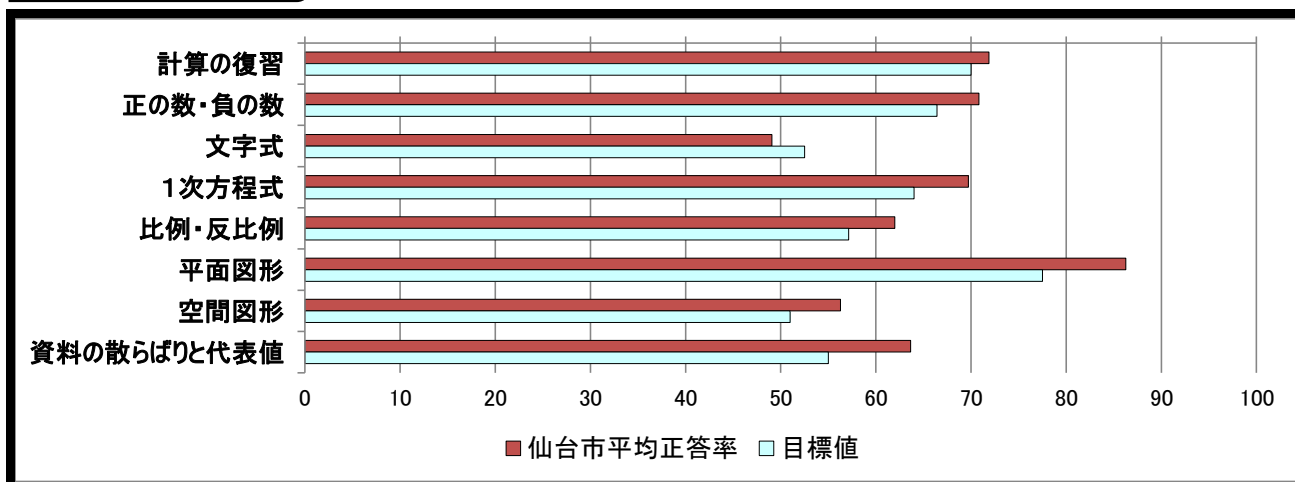
誤答分析では、「遣唐使を停止した」旨の解答にとどまるものが多く、国風文化の特色や代表的な文学作品などについては理解しているものの、その背景にある出来事との関連を捉えていなかったと推測できる。また、無解答率が27.6%と高いことから、資料をもとに考えて、表現することに抵抗を感じている生徒が多いと考える。

指導に当たっては、政治面だけでなく、対外関係なども文化の形成に影響を与えているということに関連させて授業を実践する必要がある。ここでは、唐が衰え東アジアの安定した体制が崩れたため、唐風の文化を基礎に日本の貴族の好みに合わせる動きが起こったという一連の流れを捉えさせたい。また、国風文化が形成されるまでに、いかに日本が唐の影響を受けて国づくりを行ってきたのか、整理させることも重要である。

【中学校2年生 数学】

分析結果

目標値 60.0% 市平均正答率 64.6% <1年生内容別正答率のグラフ(%)>



※目標値-5ポイント ≤ 目標値と同等 < 目標値+5ポイント

市平均正答率は、目標値と同等である。(○：成果 ●：課題)

①「1次方程式」では目標値を5.7ポイント、「平面図形」は8.8ポイント、「空間図形」は5.3ポイント、「資料の散らばりと代表値」は8.6ポイント上回っている。

①「文字と式」では、係数が1どうしの同類項をまとめる設問で、目標値を7.8ポイント下回っている。文字式を計算するとき、その式の意味を理解して処理することに課題が見られる。分子が1次式である分数の加法についての設問では、目標値を9.8ポイント下回り、昨年度と同様、課題となっている。

(※分子が1次式である分数の加法についての指導改善の方策は、昨年度の実践報告書P165参照)

②「比例・反比例」では、反比例の関係にある1組の x, y の値の変化の関係についての設問で、市平均正答率が44.8%で、半数以上の生徒が誤答となっている。比例定数の変域が正の数の時のみに反比例の関係がいえると誤認している生徒が30.1%もあり、数の範囲を負の数までひろげて考えることに課題が見られる。

指導改善の方策

① 倍数と累乗の表す意味の違いを明確にし、それを意識して計算するためにするために

同類項をまとめることができることをねらいとしている問題に課題が見られる。「 $a+a$ 」の誤答として、 a^2 と解答している生徒が30.0%にも上っている。これは、「 $a^2=a \times a$ 」であることをしっかりと認識していないことが要因として考えられる。

指導に当たっては、1次式と数の乗除を学習したあと、 $a+2$ 、 $a \times 2$ 、 $a+a$ 、 a^2 をそれぞれ面積図に表して比較させる等の活動を通して、その違いを納得した上で理解させることが必要である。また、計算に習熟させる際には、式の表す意味を読み取りながら行わせ、形式的な処理だけにならないようにしたり、誤答例を示して計算過程の誤りを指摘して修正を行ったりするなど、正しい理解を促すような指導を行うことが重要である。

② 比例定数と x, y の値の変化の関係を理解できるようにするために

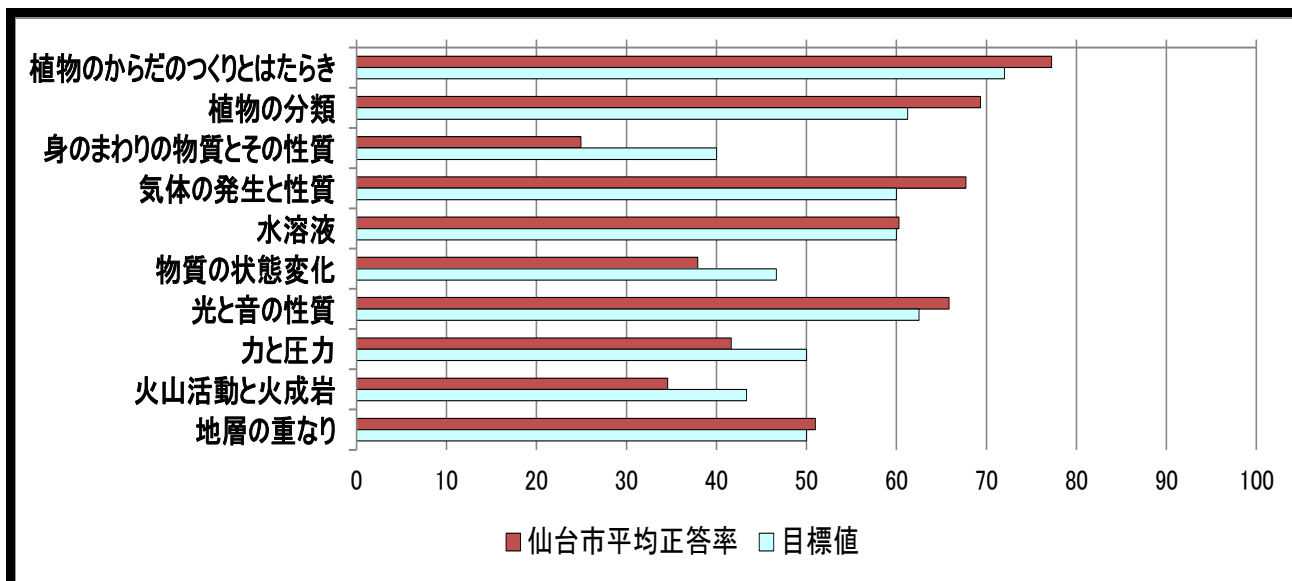
反比例の関係で、比例定数 a と x, y の値の変化の関係を問われている問題に課題が見られる。誤答分析では、比例定数 a が正の場合、つまり $a > 0$ の時のみ、反比例の性質が成り立つと選択する生徒が30.1%いたことから、比例定数と x, y の値の変化の関係について、負の数まで数の範囲を広げて考えることができなかったものと思われる。日常生活の中で反比例となる事象は、比例定数および変数 x, y の変域が正となることが多いため、反比例に関しては、負の数の範囲まで数の拡張が進まず、誤解が生じやすい。

指導に当たっては、この誤解を生まないようにするために、表から比例・反比例の関係をつかむ指導を行う際、 x, y の変域が負の場合でもそれぞれの性質が成り立つことを繰り返し指導することが必要である。反比例の式・表・グラフを丁寧に扱い、負の数の範囲でも、反比例の性質が成り立つことを確認していくことが大切である。

【中学校 2 年生 理科】

分析結果

目標値 55.7% 市平均正答率 54.8% < 1 年生内容別正答率のグラフ(%)>



※目標値-5ポイント ≤ 目標値と同等 < 目標値+5ポイント

市平均正答率は目標値と同等である。(○: 成果 ●: 課題)

- ① 「植物のからだのつくりとはたらき」では、目標値を 5.2 ポイント上回っている。
- ② 「植物の分類」では、目標値を 8.0 ポイント上回っている。
- ③ 「気体の発生と性質」では、目標値を 7.7 ポイント上回っている。
- ❶ 「水溶液」では、物質が水に溶ける量と結晶として出てくる量についての設問において、目標値を 12.5 ポイント下回っている。また、誤答の中に正答率を上回っている選択肢があることから、溶質、溶媒、水溶液の理解に課題があると考えられる。
- ❷ 「身のまわりの物質とその性質」では目標値を 20 ポイント以上下回っている設問があり、質量パーセント濃度や密度についての考え方が、十分に身に付いていないことが考えられる。

指導改善の方策

❶ 溶解度曲線のグラフを正しく読みとるために

物質の溶解度と再結晶の関係をグラフから読み取ること課題が見られた。誤答分析から、物質の溶解度と温度との関係、再結晶によって析出する物質の質量と温度との関係性についてグラフから読み取る能力が十分身に付いていないことが考えられる。

指導に当たっては、水に溶けた物質を取り出す実験結果を振り返らせながら、溶解度曲線の見方について棒グラフ型伸縮容器を使って理解させ、析出する結晶の量や水溶液中に溶けている溶質の量について、グラフや伸縮型容器を用いて説明できる表現力を身に付けさせる指導が必要である。

❷ 密度と浮き沈みの関係を正しく理解させるために

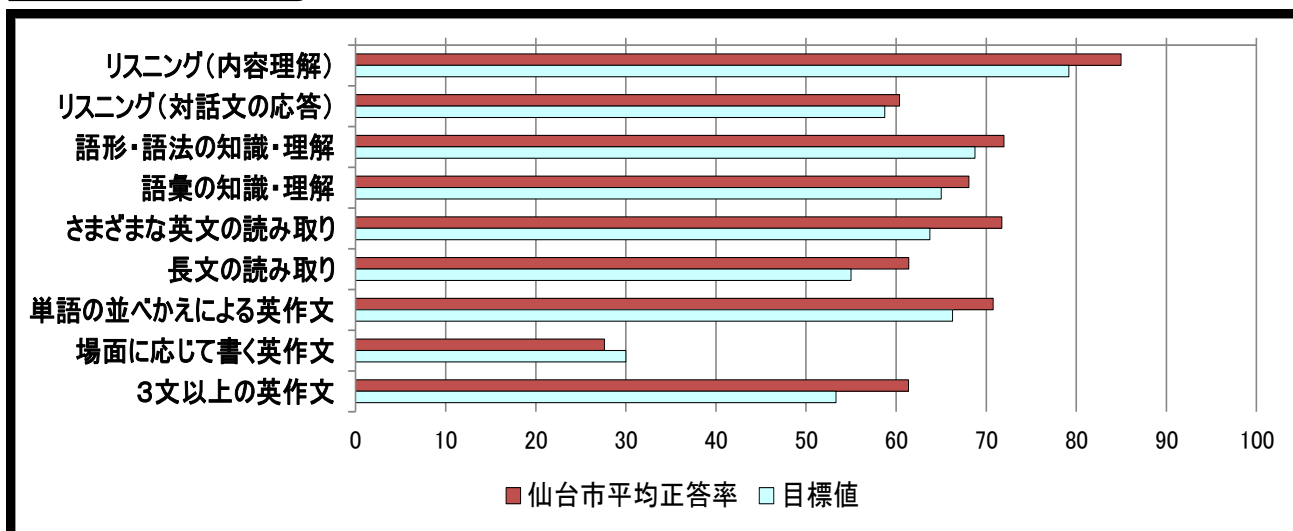
質量が同じで密度がちがう物質は、体積が違うということを説明する設問では、目標値に対して市平均正答率が低く、課題が見られた。「体積が違う」と解答するところを「質量が違う」と答える生徒も多く、「質量を同じにしたときに、密度が違うのは、体積が違うからである」という密度、質量、体積の3者の関係性が正しく理解されていないことが考えられる。

指導に当たっては、同体積の2種類の溶液に固体の物質を入れたときの、浮き沈みの現象を見せることで、液体の密度の違いを見いださせるなどの指導が必要である。

【中学校2年生 英語】

分析結果

目標値 63.0% 市平均正答率 67.6% < 1年生内容別正答率のグラフ(%)>



※目標値-5ポイント ≤ 目標値と同等 < 目標値+5ポイント

市平均正答率は目標値と同等である。(○:成果 ●:課題)

- ① 「さまざまな英文の読み取り」では目標値を7.9ポイント上回っている。
- ② 「長文の読み取り」では目標値を6.4ポイント上回っている。
- ③ 「3文以上の英作文」では目標値を8.1ポイント上回っている。
- ④ 「単語の並べかえによる英作文」において、whereを使った一般動詞の疑問文を求める設問では、目標値を3.7ポイント下回っている。疑問文を使って実際のやりとりの中で情報交換する機会が少ないことに課題があると考えられる。
- ⑤ 「場面に応じて書く英作文」において、「対話の流れに合った英文を書くことができる(過去形)」ことを見る設問では、目標値を8.0ポイント下回っている。

指導改善の方策

① 話題に応じて英語で質問ができるようにするために

対話文の流れを読み取り、与えられた語を正しく並び替えて相手の答えを引き出すための質問文を作る設問では、目標値を下回った。原因としては、生徒自らが質問する力が不足していることが考えられる。また、二人称に限定された対話には慣れているが、普段から生徒自身が三人称を話題にやりとりする機会が少ないことが挙げられる。その結果、語順・語法という文法知識だけで判断していることが推測される。

指導に当たっては、文法事項の定着を図るために、コミュニケーションの中で文法を身に付けることが重要である。その上で、対話の話題を三人称へと発展させる等、多様性をもたせ、既習の表現を生徒自身が継続的に使用する機会を意識的に設けることで、三人称や疑問文等の働きを体験的に理解させることが大切である。また、相手の意向や会話の流れを捉えながら、その場で質問する力を付けるためには、疑問文を使う力を養うことと、会話の内容を深く知ろうとするcritical thinkingを醸成することが重要であると考えられる。そのためには、日々の授業の中で、与えられた話題や情報に対して生徒自身に考えを求めることが大切である。

② 対話文を読み取り、対話の流れに合った疑問文を書くことができるようにするために

対話文の内容を読み取り、()内に、KeikoのI went to bed at twelve.という答えを引き出す3語以上の英文を書く設問では、目標値30.0%に対し、市平均正答率22.0%と下回っている。また、無解答率も27.0%と高い割合を示している。「3文以上の英作文」を書く設問において、市平均正答率は目標値を8.1ポイント上回っていることから、英作文すべてを苦手としているわけではなく、本設問のような実際の日常場面に近い状況設定に対応できなかったことが推測される。

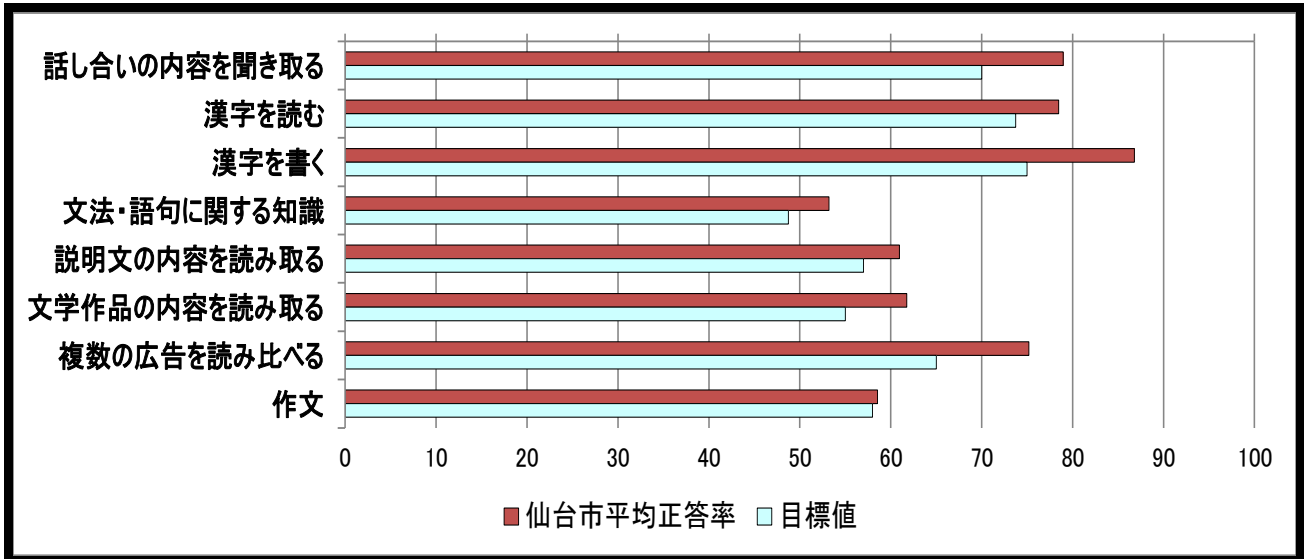
原因としては、疑問文を使って実際のやりとりの中で情報交換する機会が少ないこと、また、会話内容を改めて文字にして書く経験が少ないことが考えられる。

指導に当たっては、実際の言語使用に近い場面を積極的に設定し、与えられた状況の中で、疑問文を含む適切な表現を使って情報交換できる能力を養うことが必要である。また、「話すこと」「聞くこと」のみにとどまらず、自分の話した内容を文字で書くことを指導することも重要である。

【中学校3年生 国語】

分析結果

目標値 62.4% 市平均正答率 68.5% <2年生内容別正答率のグラフ(%)>



※目標値-5ポイント ≤ 目標値と同等 < 目標値+5ポイント

市平均正答率は目標値を上回っている。(○:成果 ●:課題)

- ①「話し合いの内容を聞き取る」では目標値を9.0ポイント上回っている。
- ②「漢字を書く」では目標値を11.8ポイント上回っている。
- ③「文学作品の内容を読み取る」では目標値を6.8ポイント上回っている。
- ④「複数の広告を読み比べる」では目標値を10.2ポイント上回っている。
- ①「説明文の内容を読み取る」では目標値を4.0ポイント上回っているものの、文章の展開を捉えて内容を整理してまとめることを問う設問では、無解答率が23.5%と高く、課題が見られた。
- ②「書くこと」では作文で目標値を0.5ポイント上回っているものの、自分のとった立場の理由を書く設問で目標値を3.4ポイント下回っている。条件を満たす作文を書く力に課題があると考えられる。

指導改善の方策

① 文章の展開を捉えて内容を整理しまとめることができるようにするために

文章の展開を捉えて内容を整理し、要旨をまとめる設問では、市平均正答率は目標値を上回った。しかし、キーワードを中心として内容を読み取り、文章を整理してまとめ、指示された字数で抜き出さなければならぬために、難しいと感じた生徒が多かったようである。そのため、無解答率が23.5%と高い。

指導に当たっては、文章の展開について、段落の役割や段落ごとの関連に着目して捉える学習活動を設定するなど、改善を図る必要がある。

② 自分のとった立場の根拠を明確にして作文を書くことができるようにするために

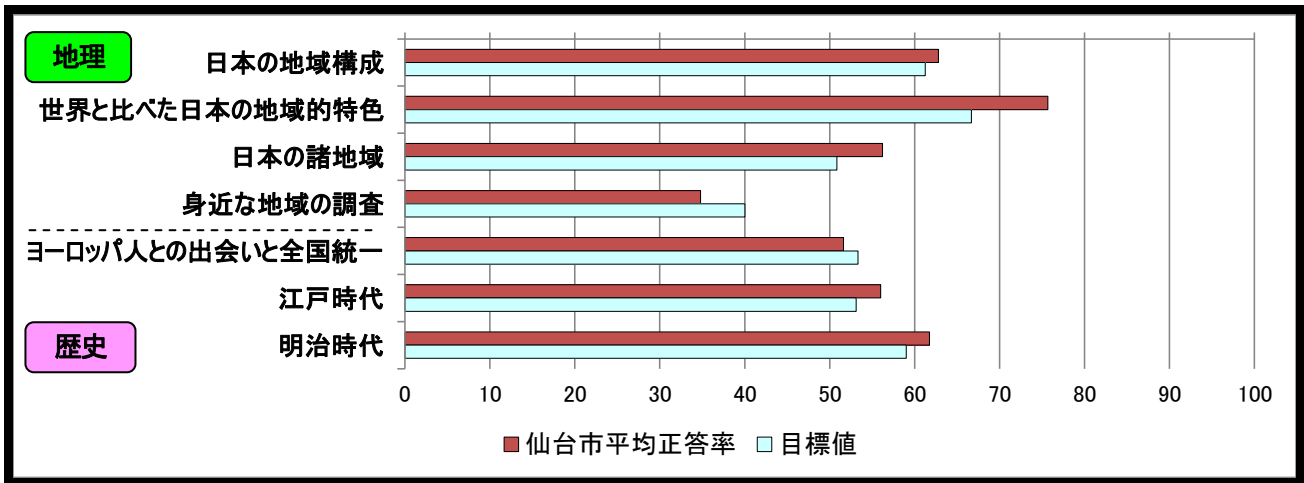
意見文を読み、賛成、反対いずれかの立場と、その根拠を明確にして自分の考えを作文する設問では、自分の体験を具体的に入れて「根拠」を書くことができない傾向が見られた。

指導に当たっては、与えられた課題などに対して立場を明確にすること、その根拠を具体的な自分の体験と結び付けて書くことを条件とした作文の課題を設定することが必要である。

【中学校3年生 社会】

分析結果

目標値 55.2% 市平均正答率 57.9% < 2年生内容別正答率のグラフ(%)>



※目標値-5ポイント ≤ 目標値と同等 < 目標値+5ポイント

市平均正答率は目標値と同等である。(○：成果 ●：課題)

- ① 「世界と比べた日本の地域的特色」では目標値を 9.0 ポイント上回っている。
- ② 「日本の諸地域」では目標値を 5.4 ポイント上回っている。
- ① 「身近な地域の調査」では目標値を 5.2 ポイント下回っている。
- ② 「ヨーロッパ人との出会いと全国統一」では、安土桃山時代の文化の特色を問う設問において、目標値を 6.7 ポイント下回っている
- ③ 「江戸時代」では、薩摩藩の改革の目的を資料から考察し表現する設問において、無解答率が 32.2% になっている。

指導改善の方策

① 地形図の理解を深めさせるために

この設問は、等高線や地図記号、八方位についての理解を基に、地形図を正しく読み取ることができるか、資料活用の力を問う問題である。誤答では、地図上の東側と西側を間違え、川の位置や流れる方角などを十分に把握できなかった生徒が多く見られた。

指導に当たっては、地形図上での八方位や地図記号の確認、等高線の読み取り方などを継続的に指導し、知識の定着を図ることが必要である。また、地形図から読み取れる情報を発表させたり、指導者の発問を通して、地形の特色や土地利用、標高などを読み取らせることで、地図に親しみながら、資料活用の力を高めるようにしたい。

② 文化の特色を理解させるために

この設問は、豊臣秀吉が活躍した安土桃山時代の文化の特色について問う問題である。言い換えれば、各時代の文化の特色、中心地、担い手、代表的文化財、その文化が成立した時代背景などについて、要点を整理して理解しているかを問う問題であるといえる。

誤答分析によると、「戦国時代」という言葉から、桃山文化が、戦乱の世がほぼ終息し、南蛮文化の渡来などの影響も受けたことにより、豪華で壮大な文化になったことに意識が向かなかったものと推測される。

指導に当たっては、それぞれの文化を育んだ時代背景や各時代の特色を考察させ、説明させることによってそれぞれの文化の特色を理解させることが必要である。また、それぞれの文化を代表する建築物や芸能、芸術品などの特徴を基に文化の特色を視覚的に理解させ、資料活用の能力を育成していくことも大切である。視覚的に捉えさせる資料を使って、複数の文化を比較し、関連性や相違点を読み取り、その理由を時代背景を踏まえて考察するような授業を展開できれば、さらに効果的である。

③ 江戸時代の諸藩の改革を理解させるために

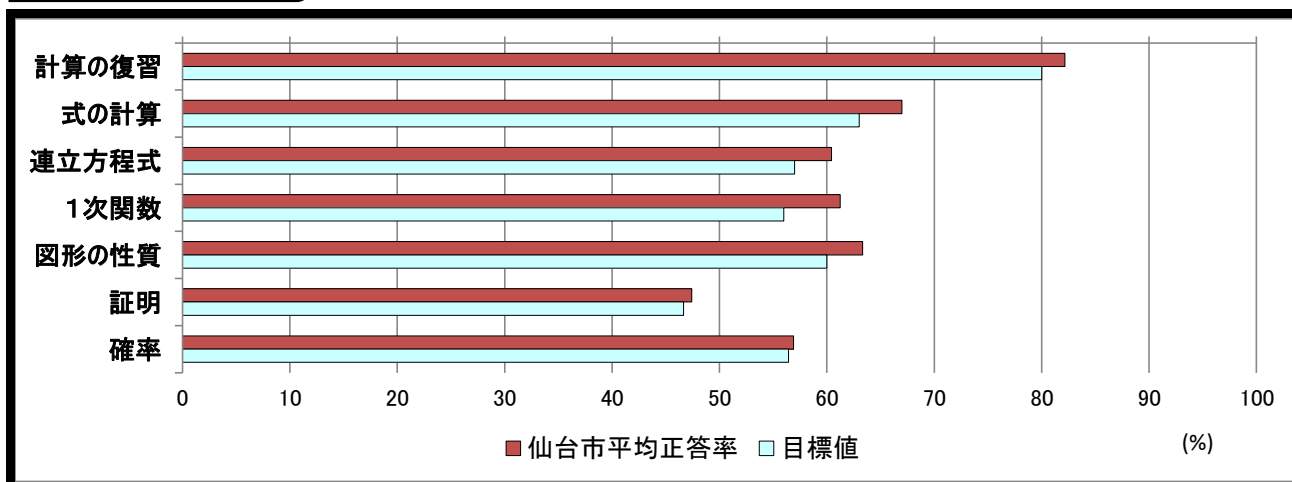
この設問では、2つの資料から薩摩藩の財政状況とそれを打破するための改革内容を読み取り、指定された語句を用いて説明する力が求められている。誤答分析では、「借金を減らす」旨と「財政を立て直す」旨のどちらか一方しか記述していない準正答率が22.8%であることから、複数の資料を活用する力が不足していることが分かる。また、無解答率の高さから、資料をもとに考えて、表現することに抵抗を感じている生徒が多いのではないかと考える。

指導に当たっては、幕末においては、幕府の財政難が表面化し、それへの対応の中で諸藩の改革が進められたこと、さらに時代の変化に合った改革を行った藩が、倒幕勢力へと成長することを理解させることが必要である。代表的なものとして、薩摩藩や長州藩などを取り上げ、改革内容を整理させ、幕府の改革内容と比較することで、財政改革に成功した藩がある一方、なぜ幕府の改革が失敗したのかを考えさせることを通して、より深まった授業を展開するようにする。

【中学校3年生 数学】

分析結果

目標値 58.8% 市平均正答率 61.8% <2年生内容別正答率のグラフ(%)>



※目標値-5ポイント ≤ 目標値と同等 < 目標値+5ポイント

市平均正答率は目標値と同等である。(○：成果 ●：課題)

- ①すべての「問題の内容」において、市平均正答率は目標値を上回っている。特に「式の計算」では4.0ポイント、「1次関数」では5.2ポイント、「図形の性質」は3.3ポイント上回っている。
- ①「証明」では、三角形の合同を証明する設問で無解答率が41.0%と高くなっている。問題文の中から証明に必要な事柄を読み取ることを苦手とし、根拠を明確にして説明することに課題が見られる。
- ②「確率」では、不確定な事象の起こりやすさの傾向をとらえ、判断の理由を説明する設問で、目標値を9.4ポイント下回っており、無解答率も25.3%と高くなっている。課題を解決するために必要な情報を読み取り、整理し、それらを根拠として説明する力が不十分であると考えられる。

指導改善の方策

① 根拠となることがらを正しく書き、よりよい証明をするために

平行四辺形の性質を使って、三角形の合同を証明することができることをねらいとしている問題に課題が見られる。明らかな誤答が25.3%、無解答率が41.0%と高く、また、解答をしても表現が不十分であったり、その根拠となることがらを書いていなかったりする割合も目立つ。これらのことから、問題文の中から証明に必要なことがらを読み取ることを苦手とし、また、推論の過程を表現する力が十分に身に付いていないことが考えられる。

指導に当たっては、問題文を丁寧に読み進め、与えられた条件や図形の性質から、証明に必要な「仮定」と「結論」を明確に捉えさせる必要がある。また、授業の中で、推論の過程を言葉で伝え合う場を設定したり、証明を読み進める場を設定したりするなどして、表現する（証明を書く）力を育成していくことが大切である。

② 不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を説明することができるようにするために

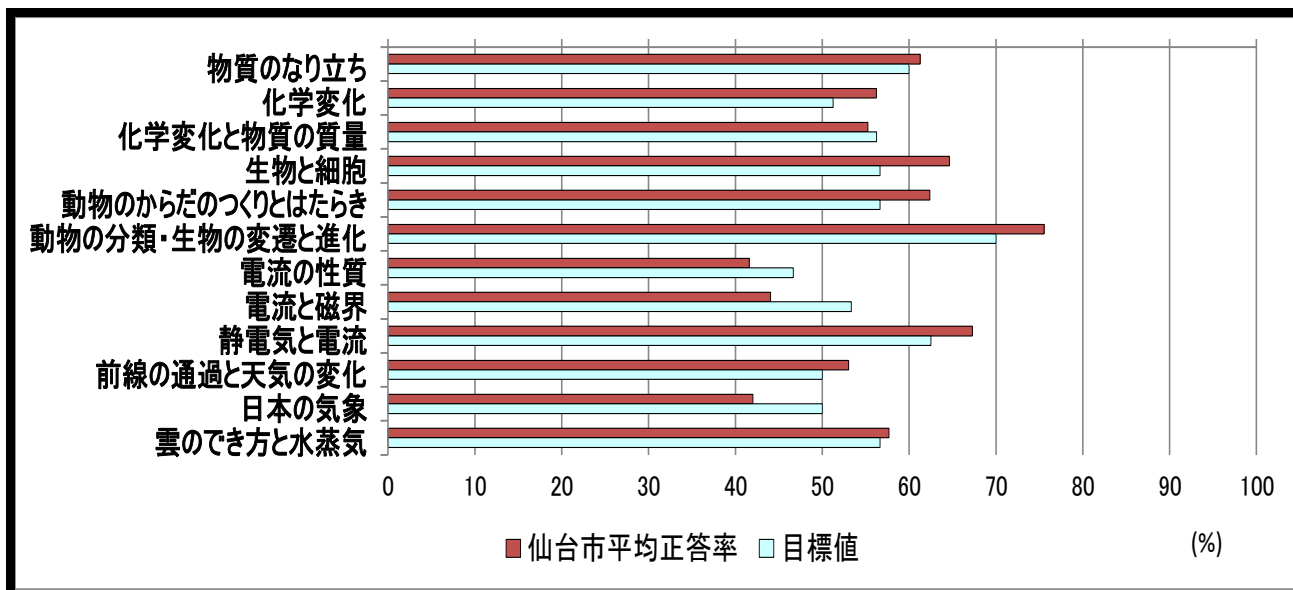
さいころの目の出方という不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を説明することをねらいとしている問題に課題が見られる。簡単な場合（さいころの4以上の目の出る確率や、くじで委員を2名選ぶときの確率など）についての確率を求める問題では目標値を上回っている。しかし、本設問においては、正しく判断しその理由を説明できている生徒が20.6%、無解答であった生徒が25.3%であることから、確率を用いて不確定な事象を捉え、説明することを苦手とする生徒が多いことがうかがえる。

指導に当たっては、確率を求めることだけを目的とするのではなく、日常生活や社会における事象を取り上げ、不確定な事象に関する問題解決を重視し、確率を用いて説明できるようにすることが重要である。起こり得る場合の数を基にして確率を求めるには、起こり得るすべての場合を正しく求めなければならない。樹形図や二次元の表などを利用して、確率を根拠として生徒が説明する場面を設けることが大切である。

【中学校3年生 理科】

分析結果

目標値 55.7% 市平均正答率 56.8% <2年生内容別正答率のグラフ(%)>



※目標値-5ポイント ≤ 目標値と同等 < 目標値+5ポイント

市平均正答率は目標値と同等である。(○:成果 ●:課題)

- ① 「生物と細胞」では、目標値を7.9ポイント上回っている。
- ② 「動物のからだのつくりとはたらき」では、目標値を5.7ポイント上回っている。
- ③ 「動物の分類・生物の変遷と進化」では、目標値を5.5ポイント上回っている。
- ① 「化学変化と物質の質量」では、加熱前後の物質の質量の関係をグラフに表す設問で、目標値を20.8ポイント下回っており、作図について課題があると考えられる。
- ② 「電流と磁界」では、目標値を9.2ポイント下回っている。電流、磁界、力の向きに関する定着に課題が見られる。

指導改善の方策

① 正しいグラフのかき方を定着させるために

データをもとに比例のグラフをかく設問では、プロットに誤りがあるものが60.3%と多くなっている。プロットの難易度を考えると、原点(0,0)のプロット忘れが誤答の多くを占めたと考えられる。

指導に当たっては、実験データをグラフ化する正しい手順を示すと共に、(0,0)がデータとして重要であることや、データの誤差を踏まえて線をかくことなどを理解させる必要がある。

② 電流の向きと磁界の向き、電流が流れている導線が受ける力の向きを立体的に把握させるために

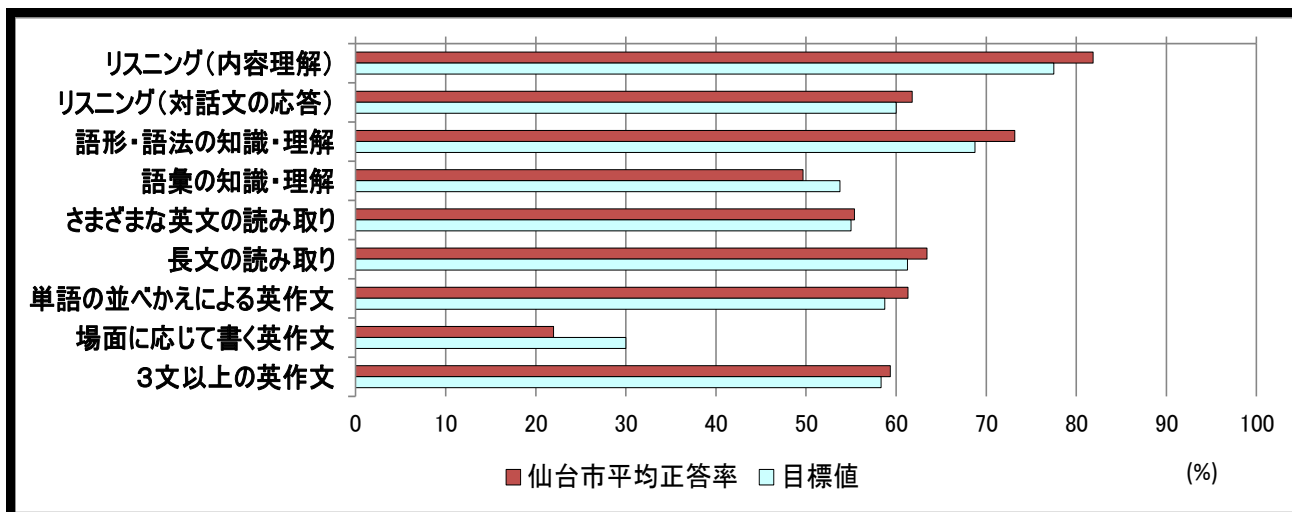
「電流と磁界」の設問では、U字形磁石がつくる磁界の向きや、電流が流れる導線のまわりの磁界の様子、さらに、電流が流れる導線が磁界の中で受ける力の向きを正しく理解しているかが問われている。誤答には、導線の役割を担ったアルミニウムはくのまわりのできる磁界の向きを反対向きに考えているものが多かった。また、電流が流れる導線が磁界の中で受ける力の向きについては、誤答のばらつきが見られ、磁界の中で受ける力の向きに関する知識の定着が図られていないことがうかがえる。

「電流と磁界」の題材では、電流の向きや磁界の向き、力の向きを立体的に捉えさせることが重要である。教科書や理科資料の写真や図、映像資料などを用いることで生徒の理解を助けられるが、これらは立体を平面で表現しているため、教材として完全と言えない点がある。そこで、観察・実験を通して現象を立体的に捉えさせた上で、図や映像を利用することが重要となる。

【中学校3年生 英語】

分析結果

目標値 60.9% 市平均正答率 62.1% <2年生内容別正答率のグラフ(%)>



※目標値-5ポイント ≤ 目標値と同等 < 目標値+5ポイント

市平均正答率は目標値と同等である。(○:成果 ●:課題)

- ① 「リスニング(内容理解)」では目標値を4.4ポイント上回っている。
- ② 「語形・語法の知識・理解」では目標値を4.4ポイント上回っている。
- ③ 「単語の並べかえによる英作文」では目標値を2.5ポイント上回っている。
- ④ 「リスニング」において、「対話文の応答」を見る設問では、目標値を12.4ポイント下回っている。
- ⑤ 「語彙の知識・理解」において、単語を正しく書くことを求める設問では、目標値を4.1ポイント下回っている。得た知識を活用することに課題があると考えられる。

指導改善の方策

① 与えられた場面や情報を理解して、それに関する質問に適切に答えることができるようにするために

資料を見ながら対話を聞き取る設問では、無解答率が43.3%と多く、無解答を含めた誤答が80%以上であった。本設問以外のリスニング問題に関しては、目標値を上回っているか、同等なので、リスニングすべてを苦手としているわけではないと思われる。本設問に関しては、状況把握・場面のイメージ化が十分でないことが英文の理解・聞き取りに影響していることが考えられる。

主な原因として、①Which month is the coldest in Sydney? の内容が理解できていない ②資料や視覚的な情報を見て、それに関する英語を聞き取る形式に慣れていないということが推測される。①に関しては、具体的にはwh-疑問文等を聞き、すぐに理解して発信する力や既習単語の理解(monthの意味と発音等)が不足していることが挙げられる。

指導に当たっては、積極的に表やグラフなどを用いた言語活動の中で、様々な語(句)やその派生語を習得させることや、疑問詞を用いた質問に答える練習を継続的に行うことが必要である。その際、与えられた場面や資料の十分な理解に基づいた言語活動を取り入れた上で行うことが大切である。

② 基本的な副詞や形容詞を正しく使えるようにするために

対話文の内容を読み取り、日本語に合った英単語を()内を書く設問において、「always」を答えさせる箇所では、目標値45.0%に対して市平均正答率が36.8%で8.2ポイント下回った。また、「different」を答えさせる箇所では、目標値30.0%に対して市平均正答率が14.6%で15.4ポイント下回った。無解答率はalwaysが17.2%、differentが33.6%で高い。これに対して、同大問中の他の設問は目標値を上回っている。この結果から、生徒は基本的な名詞や動詞は正しく書けるものの、基本的な副詞や形容詞を正しく書くことを苦手としていることが分かる。

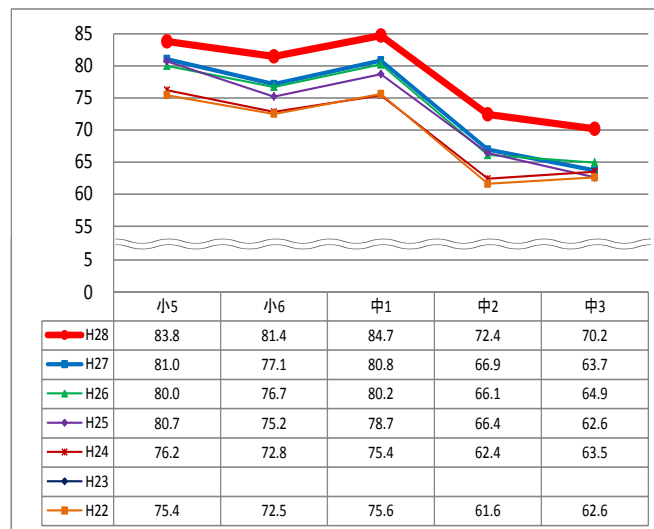
基本的な副詞と形容詞を正しく使えるようにするためには、教科書の基本文を理解し、活用することのほかに、教科書の本文にあるような論理性のある文章を用いた表現活動を併せて設定する必要がある。

仙台市生活・学習状況調査の分析結果と指導改善の方策

【分析結果 1】

自分が世の中の役に立てるように、勉強をがんばる児童生徒が全学年で増加している。

【14】自分が世の中の役に立てるように、勉強をがんばる。



改善のポイント

児童生徒の良さやがんばりを認める機会や、将来を意識することができる活動を積極的につくりましょう。

□グラフから読み取れること

〔14〕「自分が世の中の役に立てるように、勉強をがんばる」という項目が、昨年度に比較し全学年で増加している。また、〔24〕「家の人に、話をしっかり聞いてもらっている」や〔63〕「自分には、良いところがあると思う」という項目においても同様な傾向を示しており、各校における自分づくり教育の充実を始め、様々な大人と関わる活動等を通して、自分の良さや強みを自覚し、児童生徒が学習に対しても前向きに取り組もうとする姿勢を身に付けていると考える。

□指導改善の方策

○「目の前」の勉強から「将来を意識した」勉強へ

日頃の課題意識を持たせた授業や、自分づくり教育を中心とした「今の勉強が将来何の役に立つのか」という思いを、教師から児童生徒に伝え続けることが大切である。今後も、職場体験活動、スチューデントシティ、ファイナンスパーク等の取組を通して、「目の前」の勉強から「将来を意識した」勉強を意識することができるようにする。

○周りから認められる機会を積極的につくる

震災から6年目を迎え、これまで自己肯定感の低下が顕著であった結果が、今年度は、中学生では震災前の数値まで回復を見せた。教師・友達・地域・保護者からの声掛けや励ましは、児童生徒の自尊感情を高め、将来について前向きな気持ちをもつことにもつながる。「たく生き」授業プランの実践や学校内外の様々な活動を通して、児童生徒が周りから認められる機会を意図的に設けるようにする。

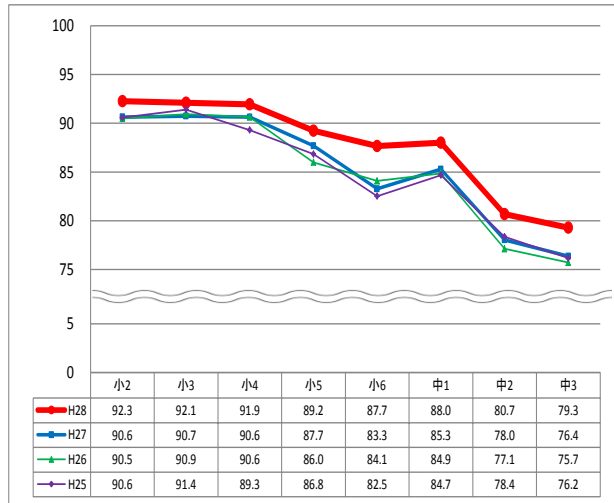
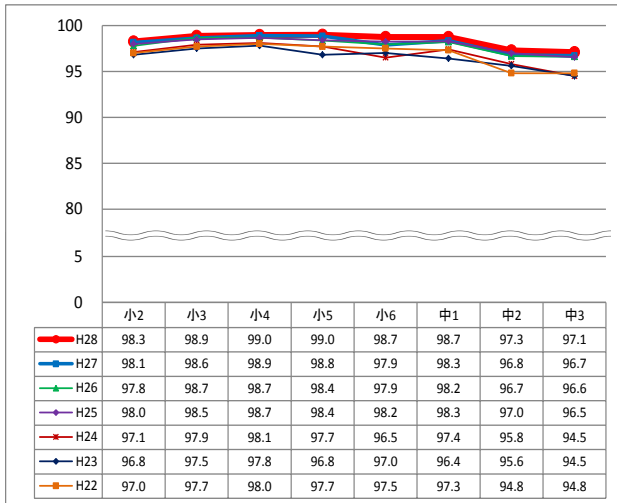
☆ご家庭では☆

勉強・運動・習い事など、結果ではなく、今児童生徒ががんばっている過程を認め、児童生徒の声に耳を傾け、一緒に考えながら励ましてあげてください。今勉強していることが将来どんな意味を持つのか、社会に役立つとはどんなことなのか、大人の立場からのお話が、きっと児童生徒のやる気や自分を好きになるきっかけになるはずです。

【分析結果 2】

ほとんどの児童生徒が、いじめはどんな理由があっても、いけないことだと思っている。

【2】いじめは、どんな理由があっても、いけないことだと思う。
 (肯定的に回答した割合) (「そう思う」と回答した割合)



改善のポイント

いじめをなくすためにできることを、継続的に児童・生徒とともに考えましょう。

□ グラフから読み取れること

「いじめは、どんな理由があっても、いけないことだと思う。」に対して「そう思う」・「どちらかと言えばそう思う」と肯定的に回答した割合は、全学年において高く推移している。さらに、「そう思う」と明確な意思をもって回答した児童生徒の割合は、昨年度より増加している。いじめ根絶に向けた様々な取組が、児童生徒の意識を良い方向に変えていると考えられる。

□ 指導改善の方策

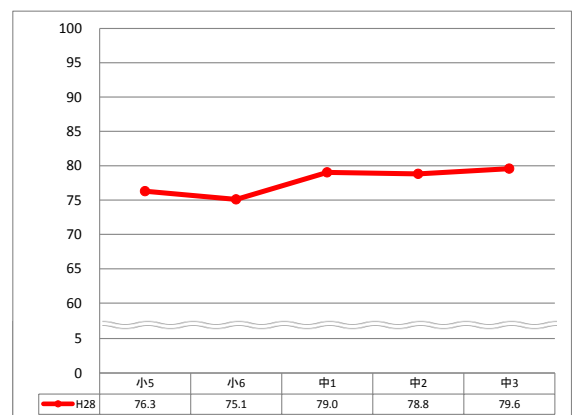
○ いじめについての正しい理解

いじめはどんな理由があってもいけないことであることを、児童・生徒に、継続的に正しく理解させることが大切です。学級でいじめについてみんなで確認したり、考えさせたりする時間を意図的に設けるようにします。

○ 自分の良いところを認識し、学級で共有する

いじめをなくし、楽しい学校生活を送れるようにするために、自分に対する肯定的な意識を持たせることが大切です。自分や友達の良いところ探しをするなど、学級全体で個々の良いところを共有する時間を設け、学級全体がお互いに認め合う雰囲気作りをします。

【4】学級では、自分のよいところを認めてもらっていると思う。



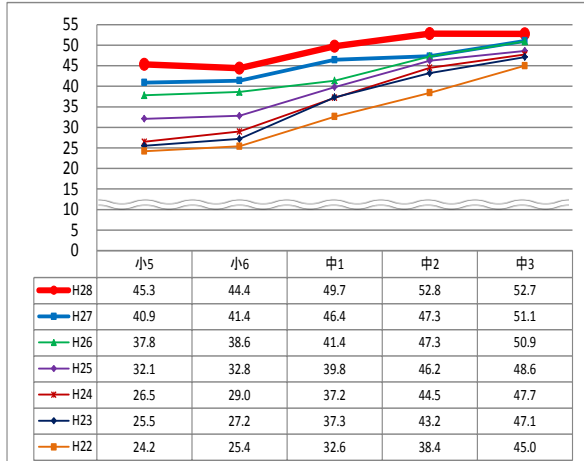
☆ ご家庭では☆

子供の自己肯定感を高め、前向きに生活できるようにするためには、褒める機会を多く作り、自信を持たせることが大切です。子供に対して、できないところを叱るよりもできたところを褒める時間を多く設けていきましょう。また、できなかったときは叱るのではなく、どうしてできなかったのか子供と一緒に考える姿勢が大切です。

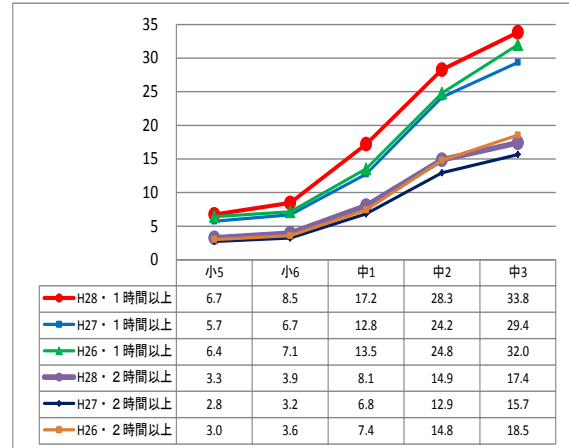
【分析結果 3】

携帯電話・スマートフォンの使い方について、家の人と約束したことを守っている児童生徒が増加している。一方、LINE などの通信アプリを 1 時間以上使用している児童生徒は、昨年度より増加している。

【33】携帯電話・スマホなどの使い方について、家の人と約束したことを守っている。
(持っていない児童生徒も含む全体に対する割合)



【34】LINE などの通信アプリを 1 日どのくらい使っていますか。(1 時間以上, 2 時間以上)



改善のポイント

睡眠時間減少による健康面への影響を考えるとともに、対話が良好な人間関係づくりに必要なことに気付かせましょう。

□グラフから読み取れること

携帯電話やスマートフォンをもつ児童生徒が増える中で、家庭で約束を話し合い、正しく携帯電話やスマートフォンを使おうとしている。一方、無料通信アプリの使用時間が増えた背景には、便利さや楽しさ以外の他に、友達関係づくりが理由の一つとして推測される。また、小学 6 年生と中学生 3 年生を比較すると、LINE などの通信アプリを使用する時間が約 4 倍に増加している。放課後、部活動等の時間を考えると、携帯・スマホの使用のため、睡眠時間が削られていることも考えられる。

□指導改善の方策

○睡眠不足が体と心に悪影響を与えることを指導する

体が急速に成長する思春期だからこそ、成長ホルモンが最も分泌する 22 時から 2 時の間に、十分に睡眠をとることが、体と心の健全な成長につながる。発育測定や長期休業前などの機会を捉え、児童生徒への保健指導を適切に行うとともに、携帯電話やスマホに時間をとられすぎしていないか、一日の過ごし方を振り返らせるようにする。

○良好な人間関係づくりを意識させる

LINE 等によるトラブルがあることを具体的に伝え、携帯電話やスマホを適切に使用するためにはどうすればよいか、考えさせる機会をもつようにする。また、LINE 等は連絡事項を中心とし、相手の顔を見て対話することが、良好な人間関係をつくるうえで大切なことに気付かせられるようにする。

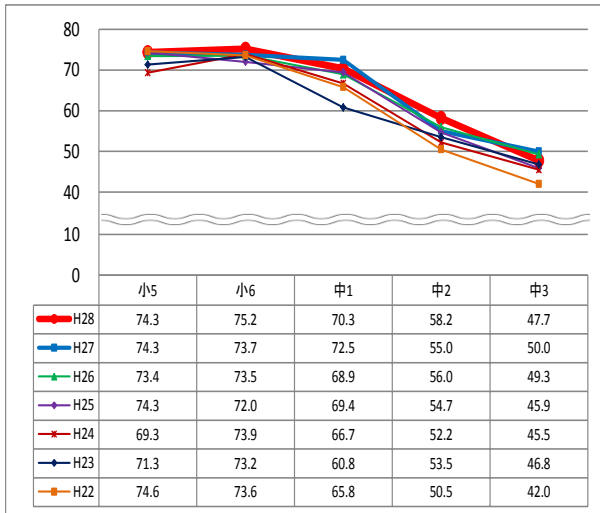
☆ご家庭では☆

小中学生の約半数の家庭で、スマホ等の使い方について保護者と約束したことを守っています。特に好奇心旺盛な中学生期に保護者と約束をし、それを守ることは、自分の身を守ることにともなう大切なことです。夜間の使用により、事件・事故に巻き込まれることがあるため、家での約束に、夜間の使用制限（午後 9 時以降は使用しない）等を入れることをおすすめします。事件・事故の被害者・加害者にならないよう、児童生徒を見守り、適切な声掛けをしてください。

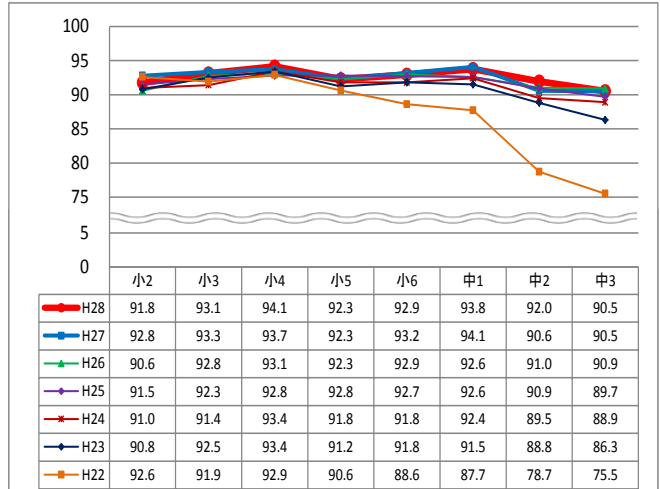
【分析結果 4】

震災後、児童生徒が地域に関わる機会が増え、進んであいさつする意識が高まっている。

【58】地域の行事に、参加している。



【59】地域の中で、知っている人に会った時は、あいさつをしている。



改善のポイント

町内の一員として活躍の場を持たせ、主体的に取り組めるようにしましょう。
挨拶の大切さやすばらしさを伝え、自分から挨拶できるようにしましょう。

□グラフから読み取れること

震災以降（H22）、地域の行事へ参加する意識や、地域で進んで挨拶をする意識が高い傾向が見られる。学校と地域が一体となった取組が増えていることが要因の一つと考えられる。

□指導改善の方策

○地域に開かれた学校づくり

地域連携担当を中心にして、町内会や市民センターの行事に児童生徒が参加できるものを探り、全員参加の行事、部活単位の参加、学年や有志の参加など行事によって形態を変えて参加の機会を増やしていく。また、時には意図的に児童生徒を参加させて、地域の行事を体験させることも検討する。そのような取組を通して、様々な世代の人と触れ合うことで、児童生徒の成長につながることに気付かせるようにする。

（※地域防災訓練の中で、中学生が役割を与えられ、参加している地区も見られます。）

○自然に挨拶ができる環境づくり

学校で行っている定期的な挨拶運動等では、小中連携を生かした活動を取り入れたり、地域や防犯ボランティア等に事前に知らせたりすることで、挨拶の飛び交う環境づくりの工夫をする。また、挨拶を交わす心地よさを体験させたり、挨拶の大切さに気付かせたりすることを継続して行うようにする。

☆ご家庭では☆

地域の行事（例：町内清掃、夏休みに子供会等で行うラジオ体操のリーダー、夏祭りのボランティア等）では、「よく手伝ってくれたね。」「助かったよ。○○だったろう？」「君たちのおかげで良い祭りになったよ。」など、保護者や地域の方々からの励ましやねぎらいの言葉が、児童生徒の自己肯定感を高めます。挨拶もまた、子供たちが地域との関わりを増やす機会と捉え、保護者や地域の方々からも積極的に声掛けをお願いいたします。

また、地域の大人が地域のために活動している姿を、子どもたちが見ることは、社会貢献の意識を育てるうえでも大切なことです。ぜひ、地域行事の機会があれば、誘っていただきたいと思えます。